

I 事業報告

2018年度は、「第2次中期経営方針（2018年度～2020年度）」の初年度として、基本方針で掲げた「青少年に多様な人々と出会い交流する機会、体験を共有できる機会を継続して提供していける仕組みや体制を推進することで、すべての青少年に成長の機会を保障する。」ことを目指して事業に取り組みました。

青少年期における多様な体験や人との出会いは、本人の意欲や主体性、社会性に大きな影響を与えますが、若い世代ほど身近な地域で多様な人と出会い交流する機会、体験を共有する機会が少なくなっていることが、2017年度に実施した体験活動に関する調査で明らかになっています。

すべての青少年が健やかに育ち、周囲の人々から見守られ、人のつながりの中で成長し、社会の一員となっていくためには、社会（地域）を構成する多様な人々と関わる必要があります。

そのため、2018年度の事業目標である「青少年が、多様な人々と出会い交流する機会、体験を共有できる機会を拡充する」取組みを推進し、青少年を支える人材や体験活動・地域活動に関わる人材の育成、経験を積み重ねることができる地域活動や青少年の主体的な活動を支援しました。

1 目標達成の取組みと主な事業

(1) 青少年が多様な人々と関わり経験の積み重ねができる地域活動の支援

活動を展開するための効果的な場の提供、相談・助言・コーディネート、青少年及び体験活動等の調査、資料収集・情報発信等により、地域活動や青少年の主体的な活動を支援しました。

【主な事業】

- ア 青少年交流・活動支援スペース、青少年育成センター、野島青少年研修センターの諸室及び物品の貸出
- イ 地域に出向いた活動プランニング（「にこまち青少年部会<西区>」、「あおぼこどもシステムネットワーク会議<青葉区>」への参加）
- ウ 青少年交流・活動支援スペースの相談支援事業
- エ 放課後キッズクラブの安定的な運営に向けた相談・助言（都筑区放課後キッズクラブ運営 NPO 法人設立支援等事業）
- オ 青少年育成センターでの相談・コーディネート
- カ 青少年に関する意識調査（「中高生の放課後の過ごし方と体験活動に関するアンケート」）
- キ 青少年育成に係る情報誌の発行（「YOKOHAMA EYE 'S」）
- ク 青少年育成センターの情報コーナーの運営（ユースライブラリーの開設）

(2) 青少年や活動に関わる人材の育成

青少年を支える人材や体験活動・地域活動・放課後児童育成に携わる人材を育成するための講座・研修を実施しました。また、地域の人たちが青少年や地域に関する知識や課題を共有・理解する機会としての講座への講師派遣、ネットワーク会議・交流会を実施しました。

【主な事業】

- ア 青少年の育成等に関する啓発講座のコーディネート（「知っておきたい！子ども・若者どこでも講座」）、青少年理解のための啓発事業の実施（「子ども・若者エンパワメントセミナー」）

イ 青少年交流・活動支援スペース、青少年育成センター、野島青少年研修センターの研修・講座

ウ 放課後3事業スタッフの人材育成研修（「横浜市放課後児童育成事業人材育成研修」）

（3）地域や団体、企業等と連携・協働した体験活動の拡充

青少年が多様な体験活動に参加し、活動に関わったすべての人が多様な人々と出会い交流する機会、体験を共有できる機会として、社会参加、自然体験、就労体験及び集団宿泊体験等の事業を実施しました。

あわせて、放課後キッズクラブを運営し、小学生が集団での遊びや体験活動を通じ、自ら学び育つことができる機会を提供しました。

【主な事業】

ア 青少年育成団体や地域の関係機関等と協働した体験機会の提供（「開港祭体験ブース出展」、「漁業就業体験」、「農業就業体験」）

イ 体験活動の普及を進めるための地域に向けた広報（体験活動推進パンフレットの作成）

ウ 青少年交流・活動支援スペースの体験プログラム（「青少年チャレンジ事業」、「読書活動推進事業」他）

エ 寄り添い型生活支援事業「かもん未来塾」、放課後キッズクラブの運営

オ 野島青少年研修センターの体験プログラム（施設特性を生かしたプログラム、自然環境を生かしたプログラム、地域産業との連携によるプログラム）

（4）法人の目的を達成するための取組

事業報告や事業成果を速やかに周知・広報することで、多くの市民や青少年に法人をPRし、青少年活動への関心と参加を促す取組みを行いました。また、寄附金の募集など組織や経営基盤の強化を図るとともに、職員の人材育成に取組みました。

【主な事業】

ア 賛助会員及び一般寄附者の拡充（会員募集事業）

イ 寄附金拡充を目的とした収益事業（「爆笑！濱っ子寄席」）

ウ 職員の人材育成（新採用研修、実務専門研修、管理職研修、人権研修）

エ 広報・PR（「よこはまユースレター」の発行、ホームページの運営、Twitter 及び Facebook の開設）

2 事業の柱と公益目的事業区分

当法人の定款に定める事業の柱と公益目的事業区分は次の通りです。

【事業の柱】

- A：青少年活動を支援する事業
- B：青少年を支える人材を育成する事業
- C：青少年に体験機会や活動の場を提供する事業
- D：その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

【公益目的事業区分】

- あ：施設の貸与
- い：講座、セミナー、育成
- う：体験活動等
- え：相談、助言
- お：調査、資料収集

A：青少年活動を支援する事業

あ：施設の貸与

この事業は、青少年育成活動を展開するための安全で効果的な場を提供することで、青少年の育成に寄与することを目的としています。

指導者・育成者による打合せや準備、活動の場として施設を提供するほか、青少年が主体的に関わることができる体験活動や宿泊プログラムがより充実できるように、相談や情報提供による支援を行いました。

なお、施設の特徴や利用案内に関しては、施設パンフレットやホームページに情報を掲載し幅広く周知しました。

【主な事業・取組み】

- 青少年交流・活動支援スペースの運営
- 青少年の指導者・育成者の活動拠点の運営（青少年育成センターの諸室及び物品の貸出）
- 青少年の集団宿泊体験活動拠点の運営（野島青少年研修センターの施設・設備貸出）

え：相談、助言

この事業は、青少年と大人が共に育つ環境を醸成することで青少年の育成に寄与することを目的としています。

青少年が事業に関わることで自らが学び・育つ機会を幅広く提供するために、青少年に対する相談・助言、情報提供、コーディネート、研修講師の派遣・紹介、研修や地域活動のプランニング等、多様な支援を行いました。

【主な事業・取組み】

- 青少年を育成する活動の支援
- 活動相談（活動プランニング、助言）
- 青少年に対する日常的な相談・助言、傾聴
- 相談・コーディネート、情報提供

お：調査、資料収集

この事業は、青少年活動に活用できる資源の調査や事業効果を検証し、青少年活動プログラム開発のための基礎資料としての活用や団体及び教育機関に提供することで、青少年の育成に寄与することを目的としています。

横浜市内で行われているNPOや企業の社会貢献活動等と青少年育成活動や学校の体験学習等が連携することで、青少年が自ら学び育つことができる活動領域の拡大や活動機会を充実するため、市内の活動の調査、新規事業の開発を行いました。

【主な事業・取組み】

- 調査・研究事業（青少年育成事業に関する情報収集、青少年及び体験活動等に関する実態調査 他）
- 体験プログラムの調査研究（自然体験キャンプ参加者を対象とした調査 他）

B：青少年を支える人材を育成する事業

い：講座、セミナー、育成

この事業は、青少年を支える人材や活動の核となる青少年を養成することで、青少年と大人が共に育つ環境を醸成し、青少年の育成に寄与することを目的としています。

青少年及び青少年育成に関する知識や技能を習得することで、青少年育成への理解が深まり青少年育成活動が普及するとともに、青少年が自ら学び育つことができる機会が充実しました。具体的には、社会的な課題をはじめ青少年育成活動の実践から得た課題を基に、テーマを定め必要に応じ専門機関・団体等と連携し講座・研修を実施しました。

【主な事業・取組み】

- 子ども・若者に関する講座・研修のコーディネート・講師派遣
- 市民への啓発事業（子ども・若者エンパワメントセミナー 他）
- 青少年サポーター育成事業
- 保護者への啓発事業（保護者セミナー）
- 放課後3事業スタッフの人材育成研修
- 青少年育成活動初任者育成事業
- 青少年育成活動を充実するための研修・講座
- 指導者・支援者相互の交流を通じて課題を解決する研修・講座
- 青少年が抱える課題の解決を支援する人材の育成
- 青少年指導者育成者研修
- ボランティアの育成

C：青少年に体験機会や活動の場を提供する事業

う：体験活動等

この事業は、青少年が学校や家庭では習得しにくい多様な体験活動に参加することで、青少年の育成に寄与することを目的としています。

青少年が体験を通じ自ら感じ、考えることで学び育つことができる機会として、就労体験、社会体験、自然体験及び集団宿泊体験等の事業を企画・実施しました。

参加者がお互いに協力して目標を達成していく過程で、青少年が社会性や協調性を育み自ら成長していくことができるよう、集団や個人の特性に応じて活動領域や手法を変え体験活動を実施するとともに、青少年事業の研究・調査・開発を行いました。

あわせて、放課後キッズクラブを運営し、小学生が集団での遊びや体験活動を通じ、自ら学び育つことができる機会を提供しました。

【主な事業・取組み】

- 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業
- 道志村と連携した社会体験・交流プログラムの実施
- 青少年の交流・体験事業
- 青少年の社会参加事業

- 異世代交流促進事業
- 青少年支援事業
- 寄り添い型生活支援事業（「かもん未来塾」の運営）
- 放課後キッズクラブ運営（人材育成、地域人材の活用、高校生インターンシップの受入れ）
- 体験プログラムの提供
- 市民活動団体と協働した体験事業
- 困難を抱える青少年のための体験活動支援
- 地域交流事業

D：その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

この事業は、収益事業及び法人運営のための取組みです。

（１）寄附金募集事業

当法人の取組みを広く市民に周知し理解を深め協力を得ることを目的として、収益事業の実施、募金箱の設置、賛助会員及び一般寄附者の拡充のための事業に取組みました。

【主な事業・取組み】

- 賛助会員及び一般寄附者の拡充（会員募集事業）
- 寄附金拡充を目的とした収益事業（「爆笑！濱っ子寄席」）

（２）事務局運営

公益財団法人としての使命を果たすとともに、安定して継続的に運営できるよう、職員の人材育成に取組みました。

【主な事業・取組み】

- 法人の広報・PR（「よこはまユースレター」の発行、ホームページの運営、Twitter 及び Facebook の開設）
- 職員の人材育成
- 評議員会、理事会の運営

Ⅱ 事業体系表

担当部署	事業の柱	公益目的事業区分	事業名
事業企画課 事業係	A 青少年活動を支援する事業	え 相談、助言	1 青少年を育成する活動の支援 2 活動の相談・助言
		お 調査、資料収集	3 調査・研究事業
	B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	4 子ども・若者に関する講座・研修のコーディネート・講師派遣 5 市民への啓発事業
	C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	6 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 7 道志村と連携した社会体験・交流プログラム
事業企画課 かもん未来塾	C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	1 寄り添い型生活支援事業
キッズ運営課	A 青少年活動を支援する事業	え 相談、助言	1 放課後キッズクラブの安定的な運営に向けた相談、助言
	B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	2 放課後3事業スタッフの人材育成研修
	C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	3 放課後キッズクラブ運営
事業施設課 青少年交流・活動支援スペース	A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	1 場の提供による活動支援事業
		え 相談、助言	2 相談による活動支援事業
	B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	3 青少年サポーター育成事業 4 保護者への啓発事業
	C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	5 青少年の交流・体験事業 6 青少年の社会参加事業 7 異世代交流促進事業 8 青少年支援事業
事業施設課 青少年育成センター	A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	1 諸室及び物品の貸出 2 利用促進事業
		え 相談、助言	3 相談・コーディネート 4 情報提供（情報コーナーの運営）
	B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	5 青少年育成活動初任者養成事業 6 青少年育成活動を充実するための研修・講座 7 指導者・支援者相互の交流を通じて課題を解決する研修・講座 8 青少年が抱える課題の解決を支援する人材の育成
事業施設課 野島青少年研修センター	A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	1 施設・設備貸出事業 2 利用促進事業
		お 調査、資料収集	3 体験プログラムの調査研究
	B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	4 青少年指導者・育成者研修 5 ボランティアの養成
	C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	6 体験プログラムの提供 7 市民活動団体と協働した体験事業 8 困難を抱える青少年のための体験活動支援 9 地域交流事業
総務課	D その他、この法人の目的を達成するために必要な事業		1 賛助会員及び一般寄附者の拡充 2 寄附金拡充を目的とした収益事業 3 法人の広報・PR 4 職員の人材育成

Ⅲ 事業一覽

事業企画課 事業係

事業の柱	公益目的 事業区分	事業名	内容	実施時期/ 回数他
A 青少年活動を支援する事業	え 相談、助言	青少年を育成する活動の支援	地域の団体や学校等による「居場所づくり」や「地域の青少年育成活動」の支援を通して、青少年の育ちを見守る地域づくりに取組みました。また、企業等の青少年育成をテーマとした社会貢献活動の支援に取組みました。 ①地域の青少年育成活動の推進・支援 ・岡村地区、十日市場地区、地域活動拠点 ・高校中退や進路未定の青少年の自立に向けた課題を抱える高校生のキャリア支援（横浜総合高校ようこそカフェ） ②青少年をテーマとした社会貢献活動の支援・推進	①通年 ②通年
		活動の相談・助言	活動や団体の課題に対応し、活動プランニング、助言を行いました。 ・活動相談（プランニング・助言）	通年 相談・支援 45件
	お 調査、資料収集	調査・研究事業	青少年及び青少年育成に関する調査・研究を通して、青少年のニーズと社会的課題を把握するとともに、中間支援組織として青少年活動事例の情報収集や活動の支援を行い、その成果を発信しました。 ①ホームページやSNSを活用した情報提供 ②青少年に関する意識調査 ③情報誌「YOKOHAMA EYE`S」の発行 ④事例研究会・勉強会	①通年 ②「中高生の放課後の過ごし方と体験活動に関するアンケート」 ③1,200部発行 ④2回 5月情報交換会 2月支援勉強会
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	子ども・若者に関する講座・研修のコーディネート・講師派遣	地域の団体や学校、PTA等が実施する青少年課題をテーマとした研修や講座へ講師を派遣し、青少年育成・支援に関する地域力の向上を図りました。また、地域における青少年育成活動等の充実・発展のために職員を派遣しました。 ①知っておきたい！子ども・若者どこでも講座 ②講師（職員）派遣	①通年 63回 6,145人 ②通年 41回
		市民への啓発事業	市民向け啓発事業を通して、青少年の支援に関わる人材の育成を図りました。 ・子ども・若者エンパワメントセミナー テーマ「居場所をなくした子ども・若者たち-川崎事件を取材して-」	11/28 249人 (定員250人)
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	青少年育成団体や関係機関等と協働して、地域資源を活かした体験活動の機会を提供しました。 ①体験活動の普及・啓発に係る広報活動 ・「体験の風をおこそう」運動の推進 ②開港祭体験ブース出展 ③就労体験支援プログラムの実施	①通年 ②6/1~2 ③漁業就業体験 (7/26~29) 7人 農業就業体験 (8/2~4) 10人
		道志村と連携した社会体験・交流プログラム	道志村児童を受入、横浜市小学生との交流、社会見学を実施し、横浜市と道志村との関わりについて理解を深めました。	10/4~5 小学5年生 11名

事業企画課 かもん未来塾

事業の柱	公益目的 事業区分	事業名	内容	実施時期/ 回数他
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	寄り添い型 生活支援事業	安定した生活基盤や学習機会が十分に与えられず困難さを抱えている小中学生を対象に「気づき、やる気、希望」を引き出す寄り添い型支援を地域や専門機関との連携により実施しました。 ①かもん未来塾の運営	通年 開所時間 月・水・金 14時～19時 火・木 14時～21時

キッズ運営課

事業の柱	公益目的 事業区分	事業名	内容	実施時期/ 回数他
A 青少年活動を支援する事業	え 相談、助言	放課後キッズクラブの安定的な運営に向けた相談、助言	都筑区放課後キッズクラブ運営NPO法人設立支援等業務として、放課後キッズクラブへの円滑な移行及び移行後の安定運営に向けた専門的な知識や助言を提供しました。	情報交換会 7人 事例検討会 13人 放課後キッズクラブ通信発行 4回 相談件数 2件
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	放課後3事業 スタッフの人材育成研修	横浜市放課後児童育成事業人材育成研修を受託し、放課後児童育成事業に必要な資質を備えた人材に努めました。	通年 (31講座・50回、 キッズクラブ現場実習・12日) 3,985人
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	放課後キッズクラブ運営	児童の自主性や主体性・創造性を培い、安全、人権、教育に配慮しながら、市内17区27か所(31年3月開設の1か所)のキッズクラブにおいて、体験プログラムや発達に応じたプログラム等を実施しました。 また、13か所の運営法人再選定に応募し、選定されました。 ①地域人材を活用したプログラム ・スポーツ、文化活動、食育、環境プログラム等 ②評議会、保護者会の開催 ③主任・副主任会議の開催	通年 ①27か所、4,764回 102,813人 ②評議会 52回 保護者会 53回 ③13回
		人材育成(スタッフ研修)	法人独自の研修を通じて、放課後児童育成に関わるスタッフとして必要な知識や技能の習得・向上を図りました。 ①主任・副主任研修 ②非常勤職員研修	①6回 ②4回
		ボランティア・高校生インターシップ受け入れ	放課後キッズにおいて、高校生インターシップを受け入れました。	夏休み(4キッズクラブ 6人)
		放課後キッズクラブの拡充	新設される放課後キッズクラブ運営法人募集に応募し、選定されました。	1か所 ※城郷小学校 放課後キッズクラブ

事業施設課 青少年交流・活動支援スペース

事業の柱	公益目的 事業区分	事業名	内容	実施時期/ 回数他
A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	場の提供による活動支援事業	青少年が気軽に安心して過ごすことのできる居場所の提供、青少年が自主的に活動する場を提供し、青少年活動の推進に努めました。 ①フリースペースの運営 ②諸室の貸出 ③利用促進	①青少年利用者 13,877人 ②稼働率 63.9% 青少年利用者 24,486人
	え 相談、助言	相談による活動支援事業	青少年に日常的な相談・助言、傾聴を行い、信頼関係を築くとともに青少年の成長と自立を支援しました。 ①日常的な相談支援事業 ②個別相談事業 ③啓発事業	①相談・傾聴件数 625件 ②相談件数 114件 ③パネル展 64人
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	青少年サポーター育成事業	青少年が気軽に相談しやすい環境を作るため、スタッフと青少年をつなぐ、大学生以上の支援ボランティアを育成しました。 ・青少年サポーター事業	活動人員 89人
		保護者への啓発事業	青少年理解や地域の繋がりを目的に、地域の団体と連携して、保護者向けセミナーを開催しました。 ・保護者向けセミナーの開催	セミナー「ネットSNSの安心安全」参加者 10人
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	青少年の交流・体験事業	世代や地域を越えた人々との出会いや多様な体験により、青少年に交流や自己成長の機会を提供するプログラムを実施しました。 ①交流促進事業 ②読書活動推進事業 ③青少年チャレンジ体験事業	①12事業 127人 ②1回 19人 ③4事業 109人
		青少年の社会参加事業	青少年が社会との繋がりを意識しながら活動し、社会や将来を考えるきっかけになる社会体験プログラムを実施しました。 ①社会体験・就労体験事業 ②青少年ボランティア事業 ③青少年委員会の運営 ④実習の受入（社会教育実習等）	①3事業 29人 ②8事業 412人 ③登録委員 8人 活動17回 ④14人
		異世代交流促進事業	青少年が異世代交流を通して、ロールモデルと出会い、活動や学び合う機会が拡充することを目指し、交流促進事業を実施しました。 ①地域交流事業 ②子ども若者コミュニティ事業	①2回、13人 ②3回、35人
		青少年支援事業	困難を抱える青少年の支援者を地域から募り、身近なサポーターとして青少年を支援するボランティアを組織し事業を実施しました。 ・小中高生を対象とした居場所づくり	「みはらし教室」40回、167人 「団体活動支援」21回、80人

事業施設課 青少年育成センター

事業の柱	公益目的 事業区分	事業名	内容	実施時期/ 回数他
A 青少年活動を支援する 事業	あ 施設の貸与	諸室及び物品の貸出	研修室や機材、印刷機、着ぐるみなどの貸出を行うことで、地域の青少年活動を支援しました。 ①研修室や機材、印刷機等の貸出 ②利用者サービスの向上	稼働率 55.4% 利用件数2,834件 利用人数41,066人
		利用促進事業	多くの方がより利用しやすい活動環境（打合わせスペース、作業スペース、ロッカーの貸出等）を整備し、施設の利用促進に取り組みました。	通年
	え 相談、助言	相談・コーディネート	青少年育成やボランティア・市民活動等にかかる相談に対応しました。	通年 相談件数 71件
		情報提供（情報コーナーの運営）	青少年育成に関わる活動や研修情報、関連図書及び団体情報等を収集・発信し、地域の青少年育成活動を支援しました。 ①情報コーナーの運営 ②青少年関係情報の情報収集・提供 ・青少年育成の講座・研修の情報発信 ・指導者のニーズ調査	①通年 「ユースライブラリー」の開設 ②通年 SNS等での情報発信、研修ニーズ調査（アンケート調査）
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	青少年育成活動 初任者養成事業	青少年育成活動の充実のために、初任者を対象とした育成事業を提供しました。また青年がボランティア活動を通じて次代の担い手となるよう、地域活動や社会参加に関心を持つきっかけづくりの場を提供しました。 ①青少年育成活動初任者研修 ②発達障がい理解と支援講座 ③コーチング入門講座 ④体験プログラム講座（レク・クラフト等） ⑤ユースチャレンジ	①5/24 49人 ②7/18 48人 ③10/17 10人 ④9/2、9/14 25人 ⑤8/16、8/17 31人
		青少年育成活動を充実するための研修・講座	青少年の「居場所」のあり方や運営について実践からヒントを得る連続講座のほか、活動に役立つ考え方や手法を学ぶ専門的な研修を実施しました。地域で青少年に関わる人材のレベルアップを図るため、さまざまな研修・講座を実施しました。 ①青少年の居場所づくり講座 ②スキルアップ研修 ③コーチングステップアップ研修 ④リスクマネジメント（安全対策） ⑤広報力アップ講座（SNSを活用した広報） ⑥青少年を支援するための記録のとり方 ⑦青少年団体、青少年機関との協働事業	①5回 107人 ②3/16全国フォーラム講演「生きるって悪くない」108人 ③10/24 7人 ④3/15 30人 ⑤2/20、2/27 45人 ⑥6/23 24人 ⑦4団体と協働
		指導者・支援者相互の交流を通じて課題を解決する研修・講座	青少年育成に関する課題の共有や情報交換できる団体・施設間のネットワークを推進しました。 ①よこはまユースゼミ ②横浜・子ども青少年に関わる活動関係者の大交流会	①5回 52人 ②2/24 88人
		青少年が抱える課題の解決を支援する人材の育成	課題を抱えた青少年を受け止め、専門機関等の社会資源につなぐことで課題解決を図ることができるユースコーディネーターの養成研修を行いました。	4回 114人

事業施設課 野島青少年研修センター

事業の柱	公益目的 事業区分	事業名	内容	実施時期/ 回数他
A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	施設・設備貸出事業	施設の安全性、利便性を高めるため、利用団体の活動目的や特性を配慮し、プログラムをサポートしました。 ①事前相談における丁寧な対応、柔軟なコーディネート ②利用者の利便性の向上のための物品販売 ③体験活動に必要な情報(気象・服装等)の提供	稼働率 83.7% 利用件数 815件 利用人数36,977人
		利用促進事業	多くの青少年や青少年指導者に活動や研修の機会を提供するため、利用促進チラシ・広告、雑誌等のメディアで施設での活動モデルを積極的に発信し、施設の活用しやすさを広く周知しました。	通年 ・近隣の学校訪問 19校 ・企業への広報活動強化
	お 調査、資料収集	体験プログラムの調査研究	多様化する青少年のニーズに合った、効果的な体験プログラムを提供するため、体験プログラムの検証・改善を図りました。 ①自然体験キャンプ参加者を対象とした調査 ②寄り添い支援事業の運営団体を対象としたニーズ調査結果をもとにした事業の実施 ③体験プログラム利用校を対象とした調査	①5・7・8・9月 ②通年 ③通年
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	青少年指導者育成者研修	青少年指導者・育成者の活動支援を目的とした講習会を実施するとともに、情報提供や相談対応を行いました。 ①実践的な指導者・育成者対象講習会の実施 ②ホームページやメールを活用した指導者・育成者への情報提供	①4/28 32人 ②通年
		ボランティアの養成	高校生からシニアまでの幅広い層にボランティア活動機会を提供し、活動を支援しました。 ①事業や体験プログラムでのボランティアの受入れと支援 ②青少年を対象とする施設ボランティアの養成 ③海活動ボランティア養成講座の実施	①通年 504人 ②通年 施設ボランティア登録者36人 ③5月延べ24人
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	体験プログラムの提供	多くの青少年に体験機会を提供できるよう、利用者のニーズや学校の教育カリキュラムに応じた体験プログラムを提供しました。 ①施設特性を活かしたプログラムの提供 ②自然環境を活かしたプログラムの提供 ③地域産業との連携によるプログラムの実施 ④防災キャンプ	①通年 12,625人 ②通年 10,730人 ③9/22 32人 ④2/8~9 31人
		市民活動団体と協働した体験事業	青少年に安全かつ充実した体験機会を提供するため、市民活動団体と協働して事業を実施しました。また周辺地域の環境保全に取り組みました。 ①自然体験キャンプの実施(短期、長期3泊4日) ②自然・文化体験教室の実施(日帰り) ③野島海岸の保全活動	通年 ①4事業 178人 ②5事業 201人 ③3回 355人
		困難を抱える青少年のための体験活動支援	困難を抱える青少年がコミュニケーション能力の向上や自信回復を図れるよう、生活体験や集団活動の機会を他団体と連携して提供しました。 ①不登校児童生徒の宿泊体験の実施 ②障がいのある児童生徒の宿泊体験の実施 ③困難を抱える青少年を対象とした宿泊キャンプの実施	①11/21~22 85人 ②12/15~16 43人 ③5回 112人
		地域交流事業	施設の活動及び青少年に対する理解を深めてもらうため、近隣地域との交流を深めました。 ①地域住民と連携した事業の実施 ②地域ネットワーク会議の開催 ③地域との防災への取組み ④のじまオープンデー	①通年(2事業) 994人 ②3回 19人 ③通年(2事業) ④2/24 310人

総務課

事業の柱	公益目的 事業区分	事業名	内容	実施時期/ 回数他
D その他、この法人の目的を達成するために必要な事業		賛助会員及び一般寄附者の拡充	賛助会員と一般寄附者の新規開拓、寄附拡充をめざし、施設を活用した会員募集事業の実施、会員及び事業協力者の交流の場を提供しました。 ①会員募集事業（陶芸教室） ②新春のつどい	①3/17 18人 ②1/28 86人
		寄附金拡充を目的とした収益事業	法人の取組みについて、市民や企業等に広く周知し、法人事業の理解と青少年活動への関心を深めるチャリティー寄席を行いました。 ・爆笑！濱っ子寄席（チャリティー寄席）	11/15 932人
		法人の広報・PR	法人情報誌やホームページ、SNSを活用した情報発信することで、青少年育成の理解と関心につなげました。 ①よこはまニュースレター（法人情報誌） ②法人ホームページの維持・管理、Twitter、Facebookの開設	①発行3回、30,000部 ②通年 Twitter5月、Facebook12月開設
		職員の人材育成	職員として身に付けるべき技能・力量形成に必要な研修（実務、管理、マネージメント）を実施しました。 ①新採用職員研修 ②実務専門研修 ③管理職研修 ④人権研修	①随時 ②11/12～11/14 階層別研修派遣 8月～9月 ビジネススキルテスト実施 ③2/26 ハラスメント研修 ④1/16、17 「性的マイノリティと人権」

Ⅳ 各課・施設の事業説明

事業企画課 事業係

A:青少年活動を支援する事業 え:相談、助言

事業名	青少年を育成する活動の支援		
日時/回数	通年	場所	岡村地区、十日市場中学校 他
対象	青少年団体、青少年育成団体		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の団体による青少年育成活動および青少年活動に対する支援を通して、青少年と大人がともに育つ環境を醸成する。 ・地域や学校内の居場所づくり支援を通じて、青少年の自立を促進する。 		
実施内容	<p>(1)地域の青少年育成活動の推進・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・磯子区岡村地区「子どもの幸せを実現する会」(事業参加者数:青少年4,649人、大人22,614人 計27,263人) …事業補助金交付、役員会・全体会への参加、講演会の企画実施補助、助成金申請支援 ・十日市場中学校地域交流事業…実行委員会への参加、焚き火の会・夏ボラ活動の支援、活動報告書作成の企画助言 <p>(2)こども青少年局と連携した青少年の地域活動拠点に関する助言・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動拠点に関するヒアリング(緑区地域振興課 他) ・青少年の地域活動拠点連絡会議のあり方に関するヒアリング(こども青少年局) ・青少年施設の視察(世田谷区野毛青少年交流センター) ・青少年の地域活動拠点連絡会議への参加 <p>(3)青少年の地域活動拠点等の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川区神大寺地区「B-skyフェス」(実施:9/2(日)参加団体:16団体 観客:1,000人) …運営委員会への参加、リハーサル・本番の運営支援 <p>【協働、連携】</p> <p>(1)子どもの幸せを実現する会、岡村中学校、磯子区役所、十日市場地域交流事業実行委員会、十日市場中学校/(2)こども青少年局/(3)GROVE運営委員会、神奈川区役所</p>		
事業名	青少年を育成する活動の支援 高校内交流相談カフェによる高校生キャリア支援事業		
日時/回数	通年	場所	横浜総合高校
対象	横浜総合高校に通う高校生 約1,100人	参加者	5,519人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の団体による青少年育成活動及び青少年活動に対する支援を通して、青少年と大人が共に育つ環境を醸成する。 ・地域や学校内の居場所づくり支援を通じて、青少年の自立を促進する。 		
実施内容	<p>(1)交流相談カフェ(ようこそカフェ)の実施…4/5~3/15(原則水曜日:31回実施)【ボランティア】20人</p> <p>(2)キャリア支援プログラムの実施:※青少年団体や関係機関等と協働した体験機会の提供「就業プログラム」として実施。</p> <p>(3)支援者ネットワーク会議の実施…4/18、9/12、12/12、2/6(毎回水曜日:4回実施)</p> <p>(4)クラウドファンディングを活用した情報発信及び支援者・協力者の募集…募集期間:10/27(土)~12/24(月)59日間、支援者数:44人、募金額:461,923円</p> <p>【関係団体】</p> <p>横浜総合高校、NPO多文化共生教育ネットワークかながわ、NPO横浜メンタルサービスネットワーク、横浜市立大学高橋研究室、パルシステムかながわ夢コープ、アクセンチュア株式会社、NPOコミュニティデザインラボ、南区社会福祉協議会 他</p>		
事業名	青少年を育成する活動の支援 青少年をテーマとした社会貢献活動の支援・推進		
日時/回数	通年	場所	主に横浜市内
対象	市民、企業、地域団体 等		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・企業や団体の社会貢献活動を支援し、地域の青少年活動を推進する。 		
実施内容	<p>(1)アクセンチュア株式会社CSR活動の支援…運営の中核団体として事業実施を支援</p> <p>事業名:介護デジタルハッカソンin横浜</p> <p>内 容:STEM人材育成を目的とした課題解決コンテストの企画実施</p> <p>後 援:横浜市政策局</p> <p>共 催:情報科学専門学校、社会福祉法人善光会、NPO法人STEMLeaders</p> <p>(2)横浜南央ロータリークラブ社会奉仕活動の支援…協力団体として企画・広報を支援</p> <p>事業名:農業体験in横須賀</p> <p>内 容:南区在住の中学生を対象とした農業体験機会の提供</p> <p>(3)ライオンズクラブ国際協会303-B地区FWT委員会…協力団体として企画・広報の支援および実施時のプログラム提供</p> <p>事業名:南房総♪有機農業体験</p> <p>内 容:横浜市内在住・在学の高校生を対象とした有機農業体験の提供</p>		
事業名	活動の相談・助言		
日時/回数	通年	場所	主に横浜市内
対象	市民、企業、地域団体 等		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の団体等への活動プランニングや助言を通して、地域の青少年活動を推進する 		
実施内容	<p>(1)地域、NPO、企業 等からの青少年育成に関する相談対応と助言…相談件数45件</p> <p>(2)地域が開催する青少年に関する取り組みへの助言。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あおぼこどもシステムネットワーク会議への参加(青葉区) …7/11(水)、8/28(火)、12/18(火) ・にこまち青少年部会への参加(西区) …4/13(金)、5/16(水)、29(火)、7/10(火)、9/25(火)、1/22(火)、2/27(水) ・子ども若者協議会への参加…9/11(火)、2/4(月) ・各区青少年指導員事業担当者会議への参加…6/29(金) <p>【協働、連携】</p> <p>青葉区こども家庭支援課、西区社会福祉協議会、こども青少年局氏青少年育成課 他</p>		

事業企画課 事業係

A:青少年活動を支援する事業 お:調査、資料収集

事業名	調査・研究事業 ホームページ・SNSを活用した情報提供		
日時/回数	通年		
対象	少年および青少年育成活動全般		
事業目的	・広報、情報発信の強化。		
実施内容	・よこはまユースホームページのSNS対応およびレイアウト変更 ・Facebookページの開設 (11月)		
事業名	調査・研究事業 青少年に関する意識調査		
日時/回数	通年		
対象	青少年および青少年育成活動全般		
事業目的	・青少年および青少年育成に関する調査・研究を通して、青少年のニーズと社会的課題を把握し、これらに対応した新たな事業展開につなげることを目指す。		
実施内容	・「中高生の放課後の過ごし方と体験活動に関するアンケート」として、こども青少年局の受託も受け、青少年の放課後の過ごし方、体験活動の経験、青少年地域活動拠点 等居場所への意識等を把握するものとして実施 ■アンケート実施:6月~9月 ■対象:市立中学校(2年生)の生徒及び保護者(各区2校、各約5,000人)、市立高校の生徒及び保護者(7校、各約5,700人)、市内県立高校の生徒及び保護者(48校、約43,000人) ■方法:市立中高は生徒・保護者の調査票を各校に配布し、学校で取りまとめて回収。県立高校は各校にQRコード記載のチラシを配布し、生徒・保護者自身がインターネットで回答 ■報告書発行:3月 ※2/4に横浜市こども若者支援協議会でアンケート分析結果について報告		
事業名	調査・研究事業 青少年育成に係る「YOKOHAMA EYE'S」の発行		
日時/回数	通年		
対象	少年および青少年育成活動全般		
事業目的	・市域の先駆的な取り組みや事例を調査し、その成果や効果を広く発信することで青少年育成活動の推進を図る。		
実施内容	・新たな青少年育成活動や事例を紹介する活動情報誌「YOKOHAMA EYE'S」の発行 テーマ:「地域を創る青少年・若者たち」 体裁:A4判、中綴じ、24頁 部数:1,200部 配布先:行政(局・区)、学校、青少年指導員、青少年活動団体、関係機関等 執筆協力:津富宏、竹原和泉、林田育美、横浜市こども会連絡協議会 他		
事業名	調査・研究事業 事例研究会・勉強会・連絡会等の開催(ネットワークの構築)		
日時/回数	通年/2回		
対象	青少年および青少年育成活動に携わる団体、機関等のスタッフ		
事業目的	・青少年および青少年育成に関わるスタッフのスキルアップ支援。 ・青少年および青少年育成に関わるスタッフのネットワークにつなげる。		
実施内容	(1)寄り添い型生活支援事業運営団体との情報交換会…市内9区で寄り添い型生活支援施設を運営している8団体に呼びかけ、取り組みや運営の課題について情報交換会を実施した。5/16(水)参加8団体(18人) (2)体験の言語化支援勉強会…体験から学んだことを言葉へと引き出す力を育てる「体験の言語化」について学び、スキルアップとスタッフ相互のネットワーク形成の場を提供した。2/14(木)参加21団体(29人) 【協働、連携】 寄り添い型生活支援事業運営団体、兵藤智佳(早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター准教授) 他		

B:青少年を支える人材を育成する事業 い:講座、セミナー、育成

事業名	子ども・若者に関する講座・研修のコーディネート・講師派遣 知っておきたい!子ども・若者どこでも講座		
日時/回数	通年	場所	横浜市内
対象	青少年指導員・民児協・PTA等地域で青少年育成に取り組む団体	件数	63回 6,145人
事業目的	・青少年を取巻く現状や身近な課題について啓発し、青少年への理解を深め、地域の大人が青少年を見守る“目”を育む。		
実施内容	・地域の団地や学校、PTA等が主催する青少年課題をテーマとした研修や講座へ講師を派遣した。 ・講師の選定・連絡調整を行うとともに、実施に係る講師謝金・交通費を負担した。 【主なテーマ】 「子どもとの関わり方」「ネット・スマホ、SNS」「非行」「性教育・性」「薬物」「若者の自立支援」「心の問題」等 【事前準備】講師との連絡調整・依頼手続き、打ち合わせへの同行等実施の準備 【当日】実施の立ち合い・記録 【事後】講師への謝金支払、実施報告書整理 【講師依頼先】学識経験者や活動実践者、医療関係者および関係機関		

事業企画課 事業係

事業名	子ども・若者に関する講座・研修のコーディネート・講師派遣 講師派遣		
日時/回数	通年	場所	横浜市内
対象	青少年団体、青少年指導者・育成者	件数	41回
事業目的	地域における青少年育成活動や居場所づくり活動等の充実・発展のために職員を派遣する。		
実施内容	・地域や団体等の依頼に応じた講師を派遣した。 【実績】公益財団法人海外日系人協会、神奈川県立青少年センター、教育科学研究会全国大会教育問題フォーラム 他		
事業名	市民への啓発事業 子ども・若者エンパワメントセミナー		
日時/回数	11/28(水) 9時~12時	場所	関内ホール 小ホール
対象	青少年育成に関わる大人、小中高校生の保護者 等一般市民	件数	249人
事業目的	・青少年を取巻く現状や身近な課題について啓発し、青少年への理解を深め、地域の大人が青少年を見守る“目”を育む。 ・思春期の子どもをもつ保護者や地域で青少年に関わる大人など一般市民を対象に、子ども・若者を取り巻く現状や身近な課題について啓発する無料の講演会を実施した。 【タイトル】「居場所をなくした子ども・若者たちー川崎事件を取材してー」 【講演者】石井 光太 氏 (ジャーナリスト・ライター・小説家) 【講演内容】 ・川崎市中1男子生徒殺害事件の取材を通してみえる現代の子ども・若者について ・子ども・若者を被害者にも加害者にもしない地域の関わり方とは 【広報周知】 ・掲載依頼…広報よこはま 他 10件 ・チラシ配布…公共施設、市立小中高校、キッズクラブ・はまっ子ふれあいスクール、青少年関係団体 (市P連、市子連、民児協、青指)、市内の大学学生課 他 600件		

C:青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 う:体験活動等

事業名	青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 体験活動の普及・啓発に係る広報活動		
日時/回数	通年	場所	横浜市内
対象	小学生~高校生、保護者		
事業目的	・地域の青少年育成団体や関係機関等と協力し、自然環境や社会資源を活用した青少年の体験活動の機会を広げる。		
実施内容	・少年5団体、横浜市立大学、「体験の風をおこそう」運動推進委員会の協力を得て、体験活動推進リーフレットを作成し、広報した。 部数:45,000部。 配布:市立小学校1年生児童全員及び市立中学・高校509校、各区役所、図書館棟公共施設62件 他		
事業名	青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 青少年育成団体や関係機関等と協働した体験機会の提供		
日時/回数	通年	場所	(1)横浜市内、(2)岩手県釜石市、(3)福島県矢祭町
対象	(1)小学生~高校生、保護者 (2)・(3)高校生		
事業目的	・地域の青少年育成団体や関係機関等と協力し、自然環境や社会資源を活用した青少年の体験活動の機会を提供する。		
実施内容	(1)開港祭体験ブース出展(ボーイスカウト) 内容:臨港パークに体験ブースを出展 参加:約500人 協働団体:ボーイスカウト横浜市連合会 (2)漁業就業体験in釜石 日時:7/26(木)~29(日) 3泊4日 内容:養殖漁業、定置網漁業の体験 参加:7人 協力:横浜総合高校、釜石湾漁業組合、アクセンチュア株式会社 (3)農業就業体験in矢祭 ※共催事業として実施 日時:8/2(木)~4(土) 2泊3日 内容:ブルーベリー収穫、そばの種まき 等農業体験 参加:10人 主催:農業法人でんぱた、協力:横浜総合高校、アクセンチュア株式会社 ※(2)・(3)共通でオリエンテーション、事前・事後の学習会を実施。		

事業企画課 事業係

事業名	道志村と連携した社会体験・交流プログラム		
日時/回数	10/4(木)～5(金)	場所	見学：横浜市内 宿泊：横浜市野島青少年研修センター
対象	道志村立道志小学校5年生 引率：道志村立道志小学校教員、道志村教育委員会職員	参加者	道志小5年生11人、引率者6人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市の小学生と道志村の小学生の交流を深める。 ・横浜での社会見学の機会を提供し、道志小児童に横浜への理解を深める。 		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・道志村児童を横浜に招待し、市内の小学生との交流、横浜市内を中心とした社会見学の機会を提供することで、横浜市と道志村の交流と相互理解を深めた。 【1日目】川井浄水場（紹介式）～万騎が原小児童交流会～マリンタワー見学～マリンシャトル乗船～中華街散策 【2日目】野島公園散策～日産追浜工場見学～驛の食卓交流ランチ（離浜式） 【協働、連携】 横浜市立万騎が原小学校、道志村立道志小学校、道志村、道志村教育委員会、こども青少年局青少年育成課、横浜市水道局、横浜港振興協会、横浜はしけ運送事業協同組合		

事業企画課 かもん未来塾

C：青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 う：体験活動等

事業名	寄り添い型生活支援事業 かもん未来塾の運営(西区受託事業)		
日時/回数	通年 月～金14時～19時(火・木21時)/開所：251日	場所	西区かもん未来塾(西区中央)
対象	西区が支援を必要と判断した困難を抱える小中学生	参加者	20人 ※うち被保護世帯17人 小学生：14人、中学生6人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・困難を抱える小中学生を対象に「気づき・やる気・希望」を引き出す。 ・他者との関係性を築きながら自らが安心していられる場(居場所)を提供する。 ・地域や専門機関と連携し、子どもを見守る地域の環境を築く。 		
実施内容	<p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区が指定した生活保護家庭の児童生徒を中心に学習支援、生活支援、総合支援を実施する。 (1)学習支援：宿題・課題等日々の学習や補習を支援。定期テスト対策や進学支援(高校見学等)。 (2)生活支援：手洗い・うがい、片付け等生活の基本行動の第一歩から始め、個々の成長に合わせて指導。 (3)総合支援： <ul style="list-style-type: none"> ・季節ごとのプログラム…月一回食の交流会・誕生会、生活体験宿泊キャンプ(12月)、クリスマス会(12月)、遠足(3月) ・保護者を含めた相談支援 他 【ボランティア】4人(うち、かもん未来塾卒業生2人) 【その他】 ・定量化評価の導入と検証・改善(定員に対する充足率、登録者の参加率による満足度、区が定める個別の支援目標<本事業を利用することで実施できる支援>に対する達成度) ・西区役所との定例ミーティングの実施 【協働、連携】西区役所福祉保健センター(生活支援課、こども家庭支援課) 		

キッズ運営課

A:青少年活動を支援する事業 え:相談、助言

事業名	放課後キッズクラブの安定的な運営に向けた相談、助言 都筑区放課後キッズクラブ運営NPO法人設立支援等業務
日時/回数	通年
対象	都筑区内はまっ子ふれあいスクールおよび地域立ち上げ型NPO法人による放課後キッズクラブ 計9校
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・全校放課後キッズクラブ転換という市の施策の推進を受け、放課後キッズクラブ運営で得たノウハウを還元する。 ・地域NPO立ち上げ型法人による放課後キッズクラブの運営を支援する。 ・将来的に、放課後キッズクラブ運営法人の枠を超えた関係づくりのきっかけにする。
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・情報交換会&勉強会「キッズクラブ事業内容の理解を深める！補助金の種類・しくみを知ろう！」 6/25(月) キッズクラブ5校(川和東小、荏田小、東山田小、牛久保小、南山田小) 計7人(うち法人職員1人) ・事例検討&情報交換会「気になる子ども・気になる親」 12/5(水) はまっ子ふれあいスクール2校(勝田小、茅ヶ崎台小)、キッズクラブ3校(すみれが丘小、東山田小、川和東小) 計13人 ・『都筑区放課後キッズクラブ通信』発行/No.9(9月)、No.10号(12月)、No.11(1月)、No.12(3月) ・相談件数…2件(東山田小キッズクラブ、川和東小キッズクラブ) 【協働、連携】 都筑区こども家庭支援課

B:青少年を支える人材を育成する事業 い:講座、セミナー、育成

事業名	放課後3事業スタッフの人材育成研修 横浜市放課後児童育成事業人材育成研修(市受託事業)
日時/回数	通年/延べ69日
対象	横浜市放課後3事業従事スタッフ
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市放課後3事業(放課後児童クラブ、放課後キッズクラブ、はまっ子ふれあいスクール)及び放課後児童人材育成事業の届出をした事業所が、各事業の目的を達成するために必要な資質を備えた人材を育成する。 ・法人として中間支援的機能を果たす。
実施内容	横浜市との契約内容(仕様書)に基づき、研修を実施した。 【事前】 講師選定・依頼・打合せ、会場及び機材の手配・手続き、研修参加者受け入れ準備(周知、名簿作成、人数調整、問い合わせ対応)、資料作成 【当日】 会場設営、講師対応、参加者対応(受付)、進行管理 【内容】 児童健全育成論、人権、いじめ・児童虐待の防止と対応、児童の健康・衛生管理、アレルギーへの対応、心肺蘇生法、応急処置法、防犯、障害理解、メンタルヘルス・セルフケア、保護者との関わり、放課後事業の基本と安全管理 他

C:青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 う:体験活動等

事業名	放課後キッズクラブ運営
日時/回数	通年
対象	小学生
事業目的	・通い慣れている小学校の施設を活用して、すべての子どもたちにとって安全で快適な「放課後の居場所」を提供する。
実施内容	【放課後キッズクラブ運営】 在籍児童数の52.2%(26か所の平均値)が登録 ※城郷3月 在籍児童の49.0%が登録 (1)プログラム実績 月平均約15回(26か所の平均値)、総計4,764回、延べ102,813人が参加 ※城郷3月:2回、延べ88人が参加 (2)評議会、保護者会の開催(3月開設の城郷を除く) ・評議会 26か所、計52回 ・保護者会 26か所、計53回 (3)主任会議、副主任会議の開催 ・主任会議 4/3(火)、7/4(火)、9/4(火)、10/3(水)、12/4(火)、1/7(月)、3/25(月) ・副主任会議 6/4(月)、8/3(木)、11/5(月)、2/4(月) ・合同会議 5/2(火)、3/4(月) 【人材育成(スタッフ研修)】 ・常勤職員研修 3/4(月) ・主任研修 9/4(火) ・副主任研修 6/4(月)、8/3(木)、11/5(月)、2/4(月) 【高校生インターンシップ受け入れ】 ・太田 2人 ・港南台第三 1人 ・瀬ヶ崎 2人 ・岡村 1人 【キッズクラブ再選定】 ・H16年度開設:太田、港南台第三、笹野台、能見台、長津田、折本、秋葉、南瀬谷 ・H26年度開設:南、永田、上矢部、飯島、瀬谷さくら いずれも再選定決定 【キッズクラブ開設】 ・2019(H31)年3月開設 城郷(港北区)

【各放課後キッズクラブの状況】 (区名50音順)

区名	学校名(小学校)	在籍人数(人)	登録人数(人)	延べ利用児童数(人)	プログラム数(件)	プログラム参加人数(人)	主なプログラム
青葉区	すすき野	155	75	6,284	156	2,136	機織り/ドリームキャッチャー作り/コースター作り/リリアンマフラー/木の枝工作/将棋/流しそうめん/ペタンク/カプラ/レゴ/プラレール/折り紙/人形劇/大縄とび 等
泉区	和泉	359	193	12,926	35	818	ミニミニスタンプラリー/親子のおやつ作り/吊るし飾り作り/ミニバスケット/かるた大会/折り紙教室/バドミントン大会/ドッジボール大会 等
旭区	笹野台	588	360	21,437	287	5,378	カプラ/紙粘土でケーキ作り/編み物教室/アイロンビーズ/輪投げ/スライム作り/卓球大会/スポーツチャンバラ/ソフトテニス/空き箱工作/お小遣い講座/和太鼓/スケート/将棋 等
磯子区	岡村	361	212	11,091	199	3,305	紙飛行機を飛ばそう/親子で木工教室/多文化共生ワークショップ/グランドゴルフ/わらじ作り/ハーバリウム/お豆腐まみれとお汁粉/おやつ 等
神奈川区	浦島	532	294	21,796	156	3,460	3B体操/ハンドベル/ダンス/ビーズストラップ作り/将棋/オセロ/素麺パーティー/ハスの花タン作り(工作)/スタンプラリー/クリスマス会/サッカー教室 等
金沢区	瀬ヶ崎	354	184	10,036	119	1,493	将棋/ドッジボール/フラワーアレンジメント/かき氷/おぼけちゃんフェス/キッズセール/木のネームタグ作り/デコパージュ/詩吟/書道/茶道 等
	能見台	419	242	11,264	168	2,648	レゴ/ドッジボール/ペットボトル空気砲/オセロ/写し絵/おりばしヒョーキ/うちわ作り/フラダンス/紙粘土キーホルダー/水遊び/スライムづくり/ミサンガづくり/万華鏡づくり/スノードーム 等
港南区	港南台第三	275	163	12,247	216	4,057	囲碁/将棋/チェス/オセロ/ヨット体験乗船会/クワガタ研究会/折り紙/ぬり絵/ドッジボール/ミニアイロンビーズ/フラダンス/ディスクミサンガ 等
港北区	日吉南	885	441	27,470	91	3,106	ドッジボール/プラバン/メッセージカード制作/オセロ大会/水遊び/防災スリッパ制作/アイロンビーズ/マジックショー/折り紙/お正月飾り作り 等
	城郷 2019年3月開所	608	298	1,005	2	88	万華鏡づくり/ぐにゃぐにゃたこ作り
栄区	飯島	557	297	17,346	310	3,869	囲碁/プラバン/粘土/ポップアップカード作り/紙飛行機大会/しめ縄作り/クリップスタンド作り/水遊び/風鈴作り/アイロンビーズ 等
	桜井	361	219	11,631	81	1,881	季節ごとの壁面装飾(桜、こいのぼり、アジサイ等)/ハン作り/きもちのお話/プラバン/アイロンビーズ/水遊び/段ボール工作/茶道/マンカラ大会/キャンプ/プログラミング教室 等
瀬谷区	瀬谷さくら	446	191	11,458	122	3,723	収穫体験(じゃがいも、とうもろこし、さつまいも、みかん)/バステルアート/ペットボトルボウリング大会/紙飛行機/コマ回しタイムトライアル/読み聞かせ 等
	南瀬谷	803	307	16,669	132	5,749	おはなしボンボン/おたのしみ会/カレンダー作り/クラフト工作/収穫祭/キッズクラブ交流会/地域探検 等
都筑区	折本	760	371	23,294	254	3,712	1年生の手形/メッセージカード作り/梅取り/茶道/ラベンダースティック/水遊び/ハーブとフルートの演奏会/ドッジボール/ミサンガ/スノードーム/ヨット乗船会 等
鶴見区	上寺尾	597	326	18,977	319	8,513	フラダンス/したじき作り/ドッジボール/アイロンビーズ/クルクルくるる工作/クラフトかご作り/茶道/編み物/英語を学ぼう/フェルトポプリ入れ作り 等
	寺尾	682	368	20,258	178	4,847	トスペース/ミサンガ作り/フラダンス教室/けん玉/ペーゴマ/プラバン/ヨット体験乗船会/ハーバリウム作り/フォトフレームづくり/水遊び/キッズ屋台/デコパージュ/茶道/かるた/スケート 等
戸塚区	秋葉	819	493	24,160	340	6,719	カレンダー作り/いちご狩り/折り紙/ショップデー/梅ジュース作り/手品教室/アイロンビーズ/スイカ割り/七夕飾り/サッカー教室/バルーンアート/大根掘り&焼き芋/けん玉/切り紙 等
	上矢部	671	346	19,293	138	4,060	プラバン/手話ダンス/折り紙/紙芝居/茶道/野菜の植え付け/英語で遊ぼう/キッズ録日/巨大ドミノ/バルーンアート/親子で流しそうめん/デコパージュ/凧あげ大会/卓球大会 等
	名瀬	533	330	14,619	137	4763	なぞなぞ大会/囲碁/カプラ/手つなぎ鬼/ブーメラン作り/メッセージカード作り 等
中区	本町	566	263	20,340	238	3,360	将棋/囲碁/チェス/オセロ/読み語り/海苔づくり体験/サンドボトル作り/クワガタ研究会/かるた大会/ドッジボール大会 等
西区	宮谷	849	421	22,572	208	6,292	海苔づくり体験/生け花/水墨画/キッズダンス/3B体操/ドッジボール/ぬり絵/ヨット体験/七夕飾り/すいか割り/かき氷/十五夜/マフラーづくり/餅つき/バレンタインチョコ作り 等
緑区	十日市場	607	294	15,567	90	2,040	クロスワードパズル/点むすび/ぬり絵カレンダー/しおり作り/近隣中学校サッカー部との交流/グランドゴルフ/スポーツチャンバラ/ジャンボかるた大会 等
	長津田	763	386	20,269	302	7,236	プラバン/コースター作り/すいか割り/ミサンガ作り/野球教室/バドミントン/科学教室/紙ヒョーキ/ドッジボール/絵本ライブ 等
南区	太田	258	172	9,277	140	2,411	紙芝居/ジャンケン大会/プラバン/バドミントン/トランプ/映画をみよう/誕生日会/安全マップ作り/いちご狩り/アイロンビーズ/手芸教室/風船バレー/昆虫教室/ソフトボール教室 等
	永田	555	274	15,240	142	3,629	読み聞かせ/折り紙/グランドゴルフ/ミニバスケットボール教室/カレンダー作り/田植え/切り紙/絵灯ろう作り/デコパージュ/囲碁/将棋/マンカラ大会/陶芸教室/メッセージカード作り 等
	南	496	213	12,598	204	3,520	アイロンビーズ/メッセージカード作り/フリフリ万歩/新聞から「の」探しタイムリレー/コースター作り/風鈴作り/読み聞かせ/粘土でクッキー作り/壁面装飾(毎月)/ラッピング教室 等
27カ所計		14,859	7,733	429,124	4,764	102,813	

事業施設課 青少年交流・活動支援スペース

A: 青少年活動を支援する事業 あ: 施設の貸与

事業名	場の提供による活動支援事業		
日時/回数	通年	場所	青少年交流・活動支援スペース
対象	青少年およびスペース利用者	利用数	青少年利用者数 38,363人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年が学校や地域、世代を越えた人々と出会い、交わり、つながる、きっかけとなる居場所づくりに取り組む。 ・青少年が自主的に活動する場を提供し、青少年活動の推進を図る。 ・青少年の視点を取り入れた新たな広報活動と利用促進に取組み、認知度の向上を目指す。 		
実施内容	<p>(1)フリースペースの運営 青少年利用者：13,877人 交流・読書・学習等の各スペースの設置、ロビーワークの実施</p> <p>(2)諸室の貸出 稼働率：63.9% 青少年利用者：24,486人 音楽スタジオ、研修室、多目的ルーム 等設備の貸出、音楽プレーヤーや映像機器 等機材・備品の貸出</p> <p>(3)利用促進 ツイッター等による広報、街頭ティッシュ配布、ロビーワークによる利用者ニーズ・満足度の把握 地域での活動報告（8回）西区、中区の青少年指導員会議、小中校長会、PTA協議会、野毛地区連絡会ほか</p>		

A: 青少年活動を支援する事業 え: 相談、助言

事業名	相談による活動支援事業		
日時/回数	通年	場所	青少年交流・活動支援スペース
対象	青少年および保護者	件数	114件（個別相談件数）
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年に日常的な相談/助言、傾聴を行い、信頼関係を築くとともに青少年の成長と自立を支援する。 ・青少年のニーズ(潜在的な課題や欲求)を把握して、必要な活動や支援に結び付ける。 ・青少年を取り巻く現状や身近な課題を知り、必要な知識を学ぶことで、青少年が課題や困難に直面するリスクを減らしていく。 		
実施内容	<p>(1)日常的な相談支援：ロビーや受付での日常的な会話（傾聴）を通じた相談・傾聴件数：625件</p> <p>(2)個別相談：相談件数：114件 不登校や引きこもり 等保護者側からの相談。家庭や学校生活でのトラブルや人間関係、アルバイト、進路 等の青少年からの相談。相談機関やケースワーカー等の支援者から体験活動への参加の相談。</p> <p>(3)啓発事業：青少年対象「LGBTパネル展」：64人</p>		

B: 青少年を支える人材を育成する事業 い: 講座、セミナー、育成

事業名	青少年サポーター養成事業		
日時/回数	通年	場所	青少年交流・活動支援スペース
対象	大学生以上	件数	延べ89人(活動人数)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年がより「相談しやすい」環境を作るため、スタッフと青少年とをつなぐ、大学生以上の支援ボランティアを育成する。 ・周辺地域の人材を活用することで、スペースの存在意義や取り組みの理解を地域に広めていく。 		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年サポーター事業 活動内容：ロビーワーク、野毛ボラどこいき隊、みはらし教室、交流事業(さくりピカカフェ)、マチピカ、大岡川さくらまつり、さくりピカポテトファーム 活動人数：89人 		
事業名	保護者への啓発事業 保護者向けセミナー「ネットSNSの安心安全」		
日時/回数	1/17(木) 10時~11時30分	場所	青少年交流・活動支援スペース
対象	西区・中区を中心とした青少年の保護者	参加者	10人
事業目的	・青少年にインターネットの安心・安全な利用方法を指導するための知識を身につける。		
実施内容	<p>講習：スマートフォンやインターネットに関わるトラブルや事件・自己の事例紹介と予防法、フィルタリングの内容や設定方法について</p> <p>講師：デジタルアーツ株式会社</p>		

C: 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 う: 体験活動等

事業名	青少年の交流・体験事業		
日時/回数	通年 / 12回	場所	青少年交流・活動支援スペース
対象	青少年~30歳、地域や諸室利用の大人	利用数	255人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な交流プログラムを通して、青少年の出会いと仲間づくりを支援する。 ・地域の大人が青少年と知り合う機会をつくることで、青少年を見守る大人の「輪」を広げる。 		
実施内容	<p>(1)交流促進事業（年12事業） 4/15(日)、5/5(土)、20(日)、12/21(金)、24(月)、1/4(金)、5(土)、11(金)、2/2(土)、3/1(金)、8(金)、23(土) 内容：アクセサリづくり体験、パンケーキカフェ、紅茶交流会 他 全12回 延べ参加者数：127人</p> <p>(2)青少年チャレンジ事業（年5事業） ①光の科学（2回）：7/26(木)、8/22(水) 参加者19人、②書道体験：1/5(土) 参加者12人 ③Funウォーク：2/9(土) 参加者13人、④DNA科学教室：3/25(月) 参加者10人 ⑤高校生による科学教室：3/28(木) 参加者55人</p> <p>(3)読書活動推進事業（年1回）【新規】 朗読劇「7月の涙、夕月夜の花束」（劇団Reality）：8/10(金) 参加者：19人</p>		

事業施設課 青少年交流・活動支援スペース

事業名	青少年の社会参加事業		
日時/回数	通年	場所	西区中区の地域、青少年交流・活動支援スペース 他
対象	中学生～社会人	参加者	441人 (1)(2)の参加者合計
事業目的	・社会体験を通して、青少年が社会や仕事について知り、将来を考えるきっかけとなる体験を提供する。		
実施内容	(1)社会体験・就労体験活動(3事業) ①社会見学ツアー：「LED栽培工場」8/1(水) 参加者8人、「横浜市東部病院」12/26(水) 参加者7人 ②若者インターンシップ：「野菜販売体験」7/24～8/24の期間、9/21(金)、11/30(金) 全10回 参加者14人 (2)青少年ボランティア事業(36回) 延べ活動人数：412人 ①夏期ボランティア体験(9回) 7/22～8/24の期間 西区中区の施設等9カ所で実施 参加者：80人 ②青少年ボランティア活動 ・地域清掃まちびか(毎月日曜日12回) 4/15、5/20、6/17、7/15、8/16、9/16、10/21、11/18、12/18、1/20、2/17、3/17 ・野毛ボラどこいき隊(8回) 5/4(金)、6/2(土)、24(日)、7/7(土)、8/18(土)、26(日)、10/6(土)、11/23(金) ・マジックボラ(3回) 8/3(金)、6(月)、1/27(日) ・高校生水源林ボランティア(1回) 8/7(火) ・中区区民まつり(1回) 10/7(日) ・横浜マラソン(1回) 10/28(日) ・西区区民まつり(1回) 11/4(日) (3)青少年委員会の運営(通年) 定例会の開催(6月から毎月第3木曜日)、アンケート調査、広報活動 登録委員：8人、活動17回 (4)実習の受入(通年) ・受入実習生：14人(社会教育実習生：8人、中学生職業体験：6人)		
事業名	異世代交流促進事業		
日時/回数	通年	場所	西区中区の地域、青少年交流・活動支援スペース 他
対象	中学生～社会人	参加者	48人
事業目的	・世代や地域を越えた多様な人との出会いや交流を通して、青少年がロールモデルと出会う機会をつくる。 ・若者世代が趣味や活動、学びの場を通してつながり、ともに社会について考える若者コミュニティをつくる。		
実施内容	(1)地域交流事業 ①さくLiviポテトファーム 3/21(木) 参加者6人 ②大岡川さくらまつりフリマ 3/31(日) 参加者7人 (2)若者コミュニティ事業 ①ラテアート 11/10(土) 参加者7人 ②ワイン講座 11/22(木) 参加者17人 ③カタン大会 12/23(金) 参加者11人		
事業名	青少年支援事業		
日時/回数	通年	場所	みはらし教室：交流スペース 他
対象	困難を抱える中学生	参加者	247人 ①②の参加者合計
事業目的	・「居場所」でのつながりを通して、潜在的な課題やリスクを抱える青少年を支援に繋ぐ。 ・地域の大人や団体、企業とのつながりを活かして、青少年の支援の充実を図る。		
実施内容	・小中学生を対象とした居場所づくり ①みはらし教室の実施(宿題支援、創作活動(工作等)、美術館見学等) 毎週火曜日 40回 参加者：167人 ②青少年支援団体の活動支援 21回 参加者数：80人(ことぶき青少年広場、PearPlant) ③青少年アウトリーチ事業 25回 延べ28人		

事業施設課 青少年育成センター

A: 青少年活動を支援する事業 あ: 施設の貸与

事業名	諸室及び物品の貸出・利用促進事業		
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年育成センター
対象	施設利用者、市民、青少年活動団体	利用数	2,834件
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・諸室及び物品等の貸出を通じ、青少年育成活動の拠点機能を充実することで、青少年育成活動を支援する。 ・多くの人がより利用しやすい活動環境を整備し、施設の利用促進に取り組む。 		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> □諸室及び物品の貸出 <ul style="list-style-type: none"> (1)研修室や機材、印刷機等の貸出 <ul style="list-style-type: none"> ・研修室等の管理運営や活動に必要な備品や機材の貸出 稼働率55.4%、利用件数2,834件、利用人数41,066人 ・プリントルームの運営 ・快適な施設管理（修繕、清掃） (2)利用者サービスの向上 <ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングの実施…利用報告書やヒアリングによって利用者の声を集めた ・利用者サービス向上のためのスタッフ研修や会議の実施…毎月1回 (3)防犯、防災への取り組み…松栄ビル主催の避難訓練への参加 □利用促進事業 <ul style="list-style-type: none"> ・多くの人が利用しやすい活動環境の整備による施設利用の促進に努めた（フリースペース新設、情報コーナー充実） 		

A: 青少年活動を支援する事業 え: 相談、助言

事業名	相談・コーディネート		
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年活動者・育成者または青少年、保護者等	利用数	71件
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年育成や、ボランティア・市民活動等にかかる相談窓口として、「解決に向かってともに考える」姿勢を基本に、活動コーディネートや情報収集、スタッフ研修に取り組む。 		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> (1)相談窓口の開設(窓口・メール・FAX等により、一次窓口として青少年育成に関する相談を受け付ける) (2)青少年育成や市民活動等にかかるコーディネート(窓口・メール・FAX、他事業所等からの依頼により受付) (3)相談スタッフのケース会議12回(全スタッフが参加) 		
事業名	情報提供(情報コーナーの運営)		
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年活動者・育成者または青少年、保護者等		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年育成にかかわる活動や研修情報、関連図書やノウハウ集および団体情報等を収集・整理・発信し、地域の青少年育成活動を支援する。また、HP等を活用し気軽に情報に触れることができる環境を整備することで、青少年に関わる層の拡大を目指す。 		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> (1)情報コーナーの運営…「ユースライブラリー」の開設(青少年育成に関する書籍や情報を提供) (2)情報収集・情報発信および調査研究…青少年に関する統計や地域活動、青少年育成の講座・研修などの情報をSNS等で発信 (3)調査・研究…青少年指導者の研修ニーズ調査。アンケートにて企画のための基礎データを収集した 		

B: 青少年を支える人材を育成する事業 い: 講座、セミナー、育成

事業名	青少年育成活動初任者養成事業 青少年育成活動ビギナーズ研修「イマドキの子ども理解と支援」		
日時/回数	5/24(木)	場所	横浜市青少年育成センター
対象	子どもに関わる活動をしている人	参加者	49人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・これから青少年育成活動をはじめようと思っている人や子どもに関わる活動をしている人を対象に日々変化する、子ども・青少年の課題を理解し支援を学ぶ。また今後の育成センターで実施する講座研修への参加につなげる。 		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ①「イマドキの子ども理解と支援」 <ul style="list-style-type: none"> ・青少年の問題・課題の理解 ・よこはまの青少年施策の動き ・青少年支援機関の紹介(児童相談所、教育支援、生活支援、こども食堂他) ※横浜の青少年支援・相談機関一覧を配布 ・相談機関の事例(児童相談所、青少年相談センター) ・子ども、青少年の日常に潜む身近なトラブル ②グループワーク ③今後の育成センターの講座研修紹介 <ul style="list-style-type: none"> 【講師】よこはまユース 守田 洋 【参加費】: 500円 		
事業名	青少年育成活動初任者養成事業 発達障がいのある子ども・青少年の理解と支援講座		
日時/回数	7/18(水)	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年育成者、青少年活動に関心がある人	参加者	48人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での活動がより充実できるよう、青少年育成に関わる知識やスキルを学ぶ講座・研修を実施する。 		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障がいのある子ども・青少年に寄り添い、支えるために、数々の事例に接してきた専門家から、発達障がいの捉え方・特徴・支援のポイント等を学ぶ。 【講師】横浜市東部地域療育センター 地域支援課 福祉相談室室長 鈴木 豊子(社会福祉法人「青い鳥」) 【参加費】: 1,000円 		

事業施設課 青少年育成センター

事業名	青少年育成活動初任者養成事業 コーチング入門講座「イキイキとしたコミュニティをつくるコーチング手法」		
日時/回数	10/17(水) 19時～21時	場所	横浜市青少年育成センター
対象	子どもに関わる活動をしている人	参加者	10人
事業目的	・地域で活動する青少年リーダーや支援者を対象に、実践的に役立つ会話手法をコーチングのノウハウに学ぶ研修を実施する。活動現場の人間関係の改善をもって、青少年育成活動の充実のための人材養成を図る。		
実施内容	・対人コミュニケーションの手法である「コーチング」の技術を、座学・実践を通して学ぶ。 座学：コーチング技術の基礎理論、コーチングの実施例 等 【講師】：川本 正秀(共育コーチング研究会 代表) 【参加費】：1,000円		
事業名	青少年育成活動初任者養成事業 体験プログラム講座「すぐに役立つ、科学工作、科学あそび」		
日時/回数	9/2(日)、14(火)	場所	横浜市青少年育成センター
対象	子どもに関わる活動をしている人	参加者	25人
事業目的	・地域での活動がより充実できるよう、青少年育成に関わる知識やスキルを学ぶ講座・研修を実施する。		
実施内容	・身近な材料を使った、楽しい科学あそびと科学工作の講習 ①「科学工作編」 ②「科学遊び編」 【講師】：「かんたん工作・科学あそび教室 くりの木倶楽部」代表 岩立 直子(けちやつぷ先生) 【参加費】：500円		
事業名	青少年育成活動初任者養成事業 ユースチャレンジ「きずな町内会★わくわく体験」		
日時/回数	8/16(木)、17(金)	場所	青少年交流・活動支援スペース
対象	高校生～大学生世代の青少年	参加者	31人(ボランティア人数)
事業目的	・次世代の担い手となる青少年が、ボランティアや講座等への参加を通じて、地域活動や社会参加に関心を持つきっかけづくりを提供することで、青少年育成活動の拡がりとし充実を図る。		
実施内容	・「きずな町内会★わくわく体験」の会場準備 ・「きずな町内会★わくわく体験」の受付や体験コーナーの運営 ※平成30年度は関内ホール工事期間のため、青少年交流・活動支援スペースを会場として実施した。		
事業名	青少年育成活動を充実するための研修・講座 青少年の居場所づくり講座(連続講座)		
日時/回数	2/1、8、15、22、3/1(毎水曜日)19時～21時	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年の居場所関係者および興味関心のある人	参加者	延べ107人
事業目的	・子ども・若者の居場所の最前線で活躍中の方々の事例報告を基に、急速に変化する社会情勢や環境の中で、居場所の役割や意味を改めて考える機会とする。 ・参加者同士の対話を通して、子ども・若者の居場所づくりについて学び合う場を提供する。		
実施内容	・各テーマの実践者の事例報告を基に、参加者同士の対話を通じて「子ども・若者の居場所の在り方等」を考える。 ①2/1…共に生きる(共生)とは? 講師/鈴木健(川崎市ふれあい館職員) ②2/8…学校内居場所の意味とは? 講師/尾崎万里奈(公益財団法人よこはまユース) ③2/15…もうひとつの学び 講師/西野博之(「フリースペースえん」代表) ④2/22…子ども・若者とどうつきあうか? 講師/石井淳一(横浜市ことぶき学童保育) ⑤3/1…居場所をどうつくるか?—これからの社会との関わりから考える 講師/柳下換(横浜市大非常勤講師) ※横浜市立大学のエクステンション講座と連携して実施		
事業名	青少年育成活動を充実するための研修・講座 「青少年の居場所づくり」全国フォーラム2019		
日時/回数	3/16(日)	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年活動を行っている団体および施設職員、個人	参加者	108人
事業目的	・全国の都市から青少年活動に参加する仲間たち、青少年を担当する職員、青少年施設の職員、NPOの活動者、学生、研究者など青少年の自立支援、居場所づくりを実践している人や興味を持っている人が集い、学び、交流する機会とする。 ※スキルアップ講座としても位置付けて実施した。		
実施内容	テーマ：「生きるって悪くない」～関係性の貧困を考える～ ◆基調講演 講師：萩原建次郎(駒澤大学総合教育研究部教授) ◆分科会報告者等によるリレートーク ◆分科会(選択制) ・第1分科会「何が貧困か?～暮らしの中の「豊かさ」を考えることから～」 報告：石井淳一 ・第2分科会「生きづらさからのリスタート～凹凸の個性が社会とのフラットな関係性に会って～」 報告：鈴木仁 ・第3分科会「若者支援のネットワークづくり～学校内カフェの取り組みから～」 報告：尾崎万里奈 ・第4分科会「多世代交流と子どもの育ち～市民の手作り児童館の取り組みから～」 報告：岩瀬祐子 ◆全体会(総括)		

事業施設課 青少年育成センター

事業名 青少年育成活動を充実するための研修・講座 コーチングステップアップ研修			
日時/回数	10/24(木)19時～21時	場所	横浜市青少年育成センター
対象	子どもに関わる活動をしている人	参加者	7人
事業目的	・地域で活動する青少年リーダーや支援者を対象に、実践的に役立つ会話手法をコーチングのノウハウに学ぶ研修を実施する。活動現場の人間関係の改善をもって、青少年育成活動の充実のための人材養成を図る。		
実施内容	対人コミュニケーションの手法である「コーチング」の技術を、座学・実践を通して学ぶ。 実践：ロールプレイによる参加者同士のコーチング、結果の検証 等 【講師】：川本 正秀(共育コーチング研究会 代表) 【参加費】：1,000円		
事業名 青少年育成活動を充実するための研修・講座 リスクマネジメント研修			
日時/回数	3/15(金) 9時30分～12時	場所	片倉うさぎ山プレイパーク
対象	青少年活動や地域活動に関わっている実践者	参加者	30人
事業目的	・専門的な知識やスキルを提供し、活動の核として活躍する人材を育成する。 ・子ども・青少年に関わるスタッフを育成する視点（マネジメント等の知識・技術）を学ぶことで、青少年育成団体や施設での青少年育成活動を充実させる。		
実施内容	実演講習「こどもの事故と対応 ～プレイパークでのリスクとハザードから学ぶ～」 ◆オリエンテーション ◆ロールプレイによるリスクマネジメント研修 ◆ふりかえり、アンケート記入 【講師】：橋本ミチ子（特定非営利活動法人横浜にプレイパークを創ろうネットワーク 理事） 【参加費】：無料		
事業名 青少年育成活動を充実するための研修・講座 広報力アップ講座「これで安心、SNSを活用した広報・PR」			
日時/回数	2/20(水)、27(水)	場所	横浜市青少年育成センター
対象	子ども・青少年に関わる団体・施設職員	参加者	45人
事業目的	・地域での活動がより充実するよう、青少年育成に関わる知識やスキルを学ぶ講座・研修を実施する。		
実施内容	講座内容 「SNS」の基本から、広報・PRに活用できるSNSの特徴や効果的な使い方を学ぶ。 ・SNSの基礎知識 ・人気SNS各社の広報の視点から見た特徴 ・成功例に学ぶSNSの活用術、他 事例発表 【講師】：杉浦 裕樹（NPO法人横浜コミュニティデザイン・ラボ代表理事） 【参加費】：各回1,000円		
事業名 青少年育成活動を充実するための研修・講座 「魔法のホワイトボード・ミーティング」			
日時/回数	6/23(木)	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年育成者、青少年活動に関心がある人	参加者	24人
事業目的	・地域で活動する青少年リーダーや支援者を対象に、実践的に役立つ会議の手法として「ホワイトボード・ミーティング」についての研修を実施する。既存会議の効率化と成果向上をもって、青少年育成活動の充実のための人材養成を図る。 ※事業計画では「青少年を支援するための記録の取り方」を予定していたが、企画段階で「会議の効率化と成果向上」をテーマの研修に変更した。		
実施内容	講義内容 ①「ホワイトボード・ミーティング」の理論と基礎 ②「ホワイトボード・ミーティング」の実践（グループワーク） ③ふりかえり、まとめ 【講師】：岸本 伴恵 （株式会社富士通エフサス イノベーション&フューチャーセンター、認定プロフェッショナルビジネスコーチ） 【参加費】：無料		
事業名 青少年育成活動を充実するための研修・講座 青少年団体や機関等との協働事業			
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年育成に関わる団体活動者 等		
事業目的	・青少年育成に取り組む団体等との協働を通して、幅広いテーマで講座研修を提供する。 ・市内の青少年育成団体の活動を支援し、育成センターの中間支援機能を発揮する。		
実施内容	協働事業 ・特定非営利活動法人よこはまチャイルドライン「子ども支援者養成講座2018」 ・（一財）横浜市母子寡婦福祉会「養育費セミナー」 ・日本作法会 横浜関内教室「心を育てる講座 こども作法」 ・横浜PTA新聞研究会「新聞づくり講習会」		

事業施設課 青少年育成センター

事業名	指導者・支援者相互の交流を通じて課題を解決する研修・講座 よこはまユースゼミ		
日時/回数	12/18(火)、1/25(金)、3/18(月)、23(土)	場所	横浜市青少年育成センター
対象	子ども・青少年に関わる若手支援者	参加者	延べ52人
事業目的	・次世代の担い手となる青少年が、ボランティアや講座等への参加を通じて、地域活動や社会参加に関心を持つきっかけづくりを提供することで、青少年育成活動の拡がりとお充実を図る。		
実施内容	<p>・各回、取り組みや課題、対象者の経験年数等を考慮しテーマを設定し、少人数で気軽に意見交換をする機会を設けた。</p> <p>・参加者同士のつながりを支援する運営を行い、学習会等の自主的なネットワークの立ち上げをサポートした。</p> <p>第1回12/18(火)…テーマ：高校生の就職とその後 参加者：7人</p> <p>第2回1/25(金)…テーマ：地方都市小田原での実践 参加者：24人 (※居場所勉強会と連携実施)</p> <p>第3回3/18(月)…テーマ：『学校の青少年』の世界 参加者：5人</p> <p>第4回3/23(土)…テーマ：『青少年の心理』の世界 参加者：8人</p> <p>第5回3/23(土)…テーマ：『発達心理学』の世界 参加者：8人</p>		
事業名	指導者・支援者相互の交流を通じて課題を解決する研修・講座 横浜・子ども青少年に関わる活動関係者の大交流会		
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年活動や地域活動に関わっている実践者	参加者	88人
事業目的	・子ども・青少年に関わる活動関係者が、お互いの活動について知り合い、対話を深めることを通じて、横浜市内の子ども・青少年支援の基盤となるネットワークの推進することを目的とする。		
実施内容	<p>・青少年に関わる活動を行っている団体が集まり、活動紹介、課題共有、意見交流会を実施</p> <p>*事務局として世話人会の支援と広報、当日の運営補助を行った。</p> <p>【世話人会】9回 毎回19時～21時30分</p> <p>4/24(火)、6/19(火)、9/17(月祝)、10/18(木)、11/20(火)、12/4(火)、1/10(木)、2/7(木)、23(土)</p> <p>【大交流会(2/24)スケジュール】</p> <p>◆参加者による活動紹介タイム</p> <p>◆交流タイム(テーマ別/フリー)</p> <p>※実施の経緯</p> <p>平成24年「青少年の地域活動拠点連絡会」、平成25年「青少年の居場所・地域活動拠点連絡会」の関係者が、平成26年に「横浜・子ども青少年に関わる活動関係者の大交流会」を開く会を設立。</p> <p>以降、共催事業として実施している。(今年度で5回目)</p>		
事業名	青少年が抱える課題の解決を支援する人材の育成 ユースコーディネーターの養成研修		
日時/回数	2/21、28、3/7、14 毎回木曜日4回(連続講座)	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年活動や地域活動に関わっている実践者	参加者	延べ114人
事業目的	・青少年を取り巻く課題を正しく理解し、青少年に寄り添うことができるほか、必要に応じて専門機関や社会資源とつなぐ人材を養成することで、青少年が見守られ、育まれる地域社会づくりを推進する。		
実施内容	<p>講座内容 ※毎回、講義+30分程度の事例検討を実施した。</p> <p>①児童虐待の早期発見・予防のために</p> <p>【講師】：石神 光(中央児童相談所虐待対応地域連携課担当係長)</p> <p>②こどもの問題行動と被害の現状を知る</p> <p>【講師】：田原 ともえ(県警察本部少年相談・保護センター 少年相談員 主幹)</p> <p>③スクールソーシャルワーカーから見た青少年の課題ーアセスメントからの課題解決ー</p> <p>【講師】：渡邊 香子(教育委員会事務局 人権教育・児童生徒課 担当係長)</p> <p>④フォローアップ講座(研修のふりかえりと情報交換)</p> <p>【講師】：守田 洋(よこはまユース事業企画課長)</p> <p>【参加費】：無料</p>		

事業施設課 野島青少年研修センター

A: 青少年活動を支援する事業 あ: 施設の貸与

事業名	施設・設備貸出事業		
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	20人以上の団体(青少年、青少年指導者・育成者、市民)	利用日数	277日
事業目的	・青少年の体験学習・集団活動を通じた青少年の育成、及び青少年指導者・育成者が行う研修活動の支援を図る。		
実施内容	施設の安全性、利便性を高めるため、利用団体の活動目的や特性を配慮し、プログラムをサポートした。 【宿泊】利用件数: 466件 利用人数: 21,618人 【日帰り】利用件数: 349件 利用人数15,359人 (1)事前相談における丁寧な対応・柔軟なコーディネート 体験学習説明会71校、事前打合せ・下見258団体・122校、出張事前学習1校、事前物品貸出3校、 事前カヌー・体験1校、事前いかだ体験・見学2校 (2)利用者の利便性向上のための物品販売、教材の貸出 物品販売 スリッパ973人、歯ブラシ5人、ロウソク25件、洗剤10件 (3)体験活動に必要な情報(気象・服装)の提供 随時対応		
事業名	利用促進事業		
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	市民及び、施設利用者		
事業目的	・より多くの青少年や指導者に体験活動や研修の機会を提供するため、新規利用団体獲得をめざす。		
実施内容	(1)大学や企業等を対象とした広報活動 ・近隣の大学2校を訪問。各研修室の具体的な使用事例や実際の利用団体が行なった活動事例を記載したちらしを作成し、施設案内した。 ・横浜市教育委員会を訪問。教職員対象の研修で利用してもらえるよう施設案内した。 ・厨房施設を活かし、企業の職員研修利用を誘致するため、従業員数の多い市内の外食企業(10社)に電話営業を行った。 (2)学校宿泊体験活動利用の新規開発 ・近隣の高等学校7校を訪問。中学校・高等学校の部活動や生徒会活動での利用を誘致するため、各研修室の具体的な使用事例や実際の利用団体が行なった活動事例を記載したちらしを作成し、施設案内した。 ・市外の学校や部活動の利用を誘致するため、(公財)横浜観光コンベンション・ビューローに依頼し、HPの「教育旅行」ページに施設情報を掲載した。 (3)広報媒体を活用した広報 ・横浜市立大学運動部連合会会報誌「聘懐」に施設情報を掲載した。		

A: 青少年活動を支援する事業 お: 調査、資料収集

事業名	体験プログラムの調査研究		
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	体験プログラム実施校、市内寄り添い型支援施設運営団体、自然体験キャンプ参加者		
事業目的	・多様化する青少年のニーズに合った効果的な体験プログラムを提供するため、体験プログラムの検証・改善を図る。		
実施内容	・多様化する青少年のニーズにあった効果的な体験プログラムを提供するための体験プログラムの検証・改善 (1)体験プログラム利用校を対象とした調査 活動後1か月程度期間を空けて、引率者にアンケートを実施した。 (2)困難を抱える青少年を対象としたニーズ調査、検証 H29年度に実施した寄り添い支援事業の運営団体のニーズ調査を「わくわく生活体験キャンプ(12/26~27実施)」の企画運営に反映し、その事業成果を検証した。 (3)自然体験キャンプ参加者を対象とした調査 カヌーキャンプinのじま、4daysサマーキャンプ及び、のじまチャレンジキャンプの参加者を対象に、活動前後にアンケートを実施した。		

B: 青少年を支える人材を育成する事業 い: 講座、セミナー、育成

事業名	青少年指導者育成者研修		
日時/回数	(1)4/28(土)11時~20時 / 1回 (2)通年	場所	横浜市野島青少年研修センター及び周辺
対象	18歳以上の青少年に関わる指導者・育成者	参加者	32人
事業目的	・青少年育成に関わる人材を育成するために、体験活動の知識や技術習得を目的とした講習会を実施するとともに、情報提供や相談対応を行う。		
実施内容	・青少年指導者・育成者の活動支援を目的とした講習会の実施、及び情報提供や相談対応。 (1)実践的な指導者・育成者対象講習会の実施 ・「みんなであつこう! キャンプファイヤー in のじま」 4/28(土)11時~20時 参加者32人 【内容】キャンプファイヤーづくりのノウハウについての講習、 レクリエーションゲームの創作(ゲームを指導できるよう講師がサポート)、キャンプファイヤーの実践 【講師】YSRS 横浜市学校レクセミナー (2)ホームページやメールを活用した指導者・育成者への情報提供 ・指導者・育成者を対象とした研修・講座の案内や青少年の体験活動情報を施設のホームページやメールを活用して発信、周知することで活動支援や人材育成を図った。		

事業施設課 野島青少年研修センター

事業名	ボランティアの養成		
日時/回数	通年 / 198回	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	高校生以上		
事業目的	・ボランティア活動機会の提供を通じて、青少年の体験活動を支える人材の育成、及び青少年に多世代のボランティアとの触れ合いを通じて、豊かな人間性を育む機会を作る。		
実施内容	<p>・高校生年代からシニアまでの幅広い層に対するボランティア活動機会を提供し、活動を支援した。</p> <p>(1)事業や体験プログラムでのボランティアの受け入れと活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験プログラム…52件延べ226人 (カヌー体験、海活動、野島カーリー、ちらし寿司、陶芸、ポーセリンアート) ・Kids&Junior防災キャンプ…1件延べ15人 ・自然体験キャンプ…34件延べ34人 ・文化体験教室…1件延べ8人 ・障がいのある児童生徒の宿泊体験…1件延べ73人 ・のじまオープンデー…1件延べ22人、 ・植栽ボランティア…126件延べ126人 <p>【協力】野島町内会、童謡の会帰帆、横浜市立大学ボランティア支援室、関東学院大学学生支援室</p> <p>(2)青少年を対象とする施設ボランティア『のじボラ』の養成 登録人数36人 (3/31現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動説明会兼研修会 4/22(日)、5/3(木)、11/1(木) 全3回31人 ・宿泊研修『のじボラわいわいキャンプ』12/21(金)～22(土)、2/8(金)～9(土) 延べ10人 ・『のじボラ』参加事業のふりかえりにおける指導 参加事業毎に実施 ・研修センターのボランティア情報をメールで発信 毎月1回 <p>(3)海活動ボランティア講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『海あそびdeボランティア』の共催 5/9(水)、16(水)、23(水)、30(水)10時～12時 参加者延べ24人 <p>【主催】金沢区 【共催】(社福)横浜市福祉サービス協会</p> <p>第1～2回 海の生き物に関する座学、海あそび(干潟観察) 体験</p> <p>【講師】自然体験教育研究会NEES 代表 山田陽治氏</p> <p>第3～4回 こどもとの関わり方に関する座学、体験プログラム(カニ釣り) 体験といかだ作り体験の見学</p> <p>【講師】よこはまユース 阿久津 強</p>		

C:青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 う:体験活動等

事業名	体験プログラムの提供		
日時/回数	(1)2通年 (3)9/22(土)	場所	横浜市野島青少年研修センター及び周辺
対象	(1)2利用団体 (3)小学3年生以上とその保護者 (4)金沢区在住または在学の小学生～高校生		
事業目的	・利用者のニーズや学校の教育カリキュラムに応じた体験プログラムを提供することで、より多くの青少年に体験機会を提供する。 ・防災への意識を高めることを目的とし、防災キャンプを実施する。		
実施内容	<p>・より多くの青少年に体験機会を提供できるよう、利用者のニーズや学校の教育カリキュラムに応じた体験プログラムを提供した。</p> <p>(1)施設特性を活かしたプログラムの提供</p> <p>○有料プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 野島カーリー: 2,141人 b. 250カレー: 1,521人 c. 野島の海苔を使ったおにぎり作り: 24人 d. ちらし寿司作り: 115人 e. のじたま君作り: 150人 f. 手作りプラネタリウム: 142人 g. ちりめんモンスターを探せ: 1,238人 h. 陶芸: 45人 i. ポーセリンアート: 15人 j. 干物作り: 96人 k. もちつき: 308人 <p>【講師・協力】須藤義明氏、童謡の会帰帆、県立金沢養護学校高等部</p> <p>○無料プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> a. キャンドルファイヤー: 6,261人 b. レクリエーションゲーム: 178人 c. 館内フォトラリー: 391人 <p>(2)自然環境を活かしたプログラムの提供</p> <p>○有料プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> a. カヌー体験: 825人 b. いかだ作り: 1,924人 c. 干潟観察: 1,512人 d. カニ釣り: 1,289人 e. ミニ水族館: 35人 f. 漁師体験: 340人 g. ハゼ釣り: 40人 h. ビーチグラス: 672人 i. 化石レプリカ: 228人 j. バードコール: 857人 k. ビーチコーミング: 266人 l. 火起こし: 90人 m. 星空観察: 79人 n. 釣りゲーム: 26人 <p>【講師・協力】NPO法人横浜金沢カヌークラブ</p> <p>【協力】漁師 早川厚一郎氏、地域活動支援センターもくもく、県立金沢養護学校高等部</p> <p>○無料プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> a. フォトリリー: 2,547人 <p>(3)地域産業との連携によるプログラムの実施</p> <p>「プレミアム探検ツアー」9/22(土)9時～17時 参加者32人 【主催】(株)横浜シーサイドライン</p> <p>【参加費】大人: 2,500円、中学生以下2,000円 【内容】シーサイドライン車両基地見学、カヌー体験、カニ釣り</p> <p>【講師】NPO法人横浜金沢カヌークラブ</p> <p>(4)防災キャンプ</p> <p>「Kids&Junior 防災キャンプ」2/8(金)17時～9(土)8時30分 参加者31人</p> <p>【参加費】500円 【内容】段ボール等を使った寝場所作り、炊き出し体験、避難所運営ゲーム、夜間避難訓練</p> <p>【協力】てんでんこ金沢プロジェクト</p>		

事業施設課 野島青少年研修センター

事業名	市民活動団体と協働した体験事業		
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	小中学生、一般、利用団体		
事業目的	・市民活動団体と協働して事業を実施することで、安全かつ充実した体験機会を提供する。		
実施内容	<p>・青少年に安全かつ充実した体験機会を提供するため、市民活動団体と協働して体験教室及び宿泊キャンプを実施した。また、周辺地域の環境保全に取り組んだ。</p> <p>(1)自然体験キャンプの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カヌーキャンプin野島 5/19(土)～20(日) 参加者44人、7/1(土)～2(日) 参加者42人 毎回10時30分～翌11時30分 <ul style="list-style-type: none"> 【内容】カヌー体験、フォトラリー、ナイトウォーク、食事作り 【参加費】4,000円 【講師・協力】NPO法人横浜金沢カヌークラブ 【共催】公益財団法人横浜市緑の協会 【ボランティア】延べ13人 【協力】横浜市立大学ボランティア支援室、関東学院大学学生支援室 ・4days サマーキャンプ 8/6(月)13時30分～7(火)17時 参加者20人 <ul style="list-style-type: none"> 【内容】魚の仕掛けづくり、夕食づくり、ナイトハイク、夜の生き物観察会、ポーセリンアート体験、フォトラリー、My箸づくり、流しそうめん体験、野外炊事体験 【参加費】7,000円 【後援】公益財団法人横浜市体育協会 【講師】寺本章夫氏 【協力】一般財団法人横浜港振興協会、特定非営利活動法人舞岡・やとひと未来 【ボランティア】5人 ・のじまチャレンジキャンプ 9/29(土)10時30分～30(日)11時 参加者38人 <ul style="list-style-type: none"> 【内容】砂絵作り、天体観測、キャンドルライトづくり 【参加費】5,000円 【講師・協力】野島自然観察探見隊、照日学氏 【協力】NPO法人横浜金沢カヌークラブ、横浜市立大学ボランティア支援室、関東学院大学学生支援室 【ボランティア】9人 ・1泊2日の秘密基地づくり 10/27(土)9時30分～28(日)15時 参加者34人 <ul style="list-style-type: none"> 【内容】設計図作り、秘密基地づくり、グループ毎の発表会・解体 【参加費】5,000円 【共催】(公財)横浜市緑の協会 【講師】特定非営利活動法人横浜にプレイパークを創ろうネットワーク 【ボランティア】7人 <p>(2)自然体験・文化教室の実施(日帰り)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海の生き物観察会 5/12(土)9時～12時 参加者51人 <ul style="list-style-type: none"> 【内容】潮干狩り・干潟観察体験、ミニ水族館を使った生き物解説 【参加費】500円 【講師・協力】自然体験教育研究会NEES 代表 山田陽治氏 ・カヌー体験教室 6/3(土)9時30分～12時、13時～15時30分、参加者49人 【内容】カヌー体験実習 <ul style="list-style-type: none"> 【参加費】大人2,000円、18歳以下1,000円 【講師・協力】NPO法人横浜金沢カヌークラブ 【共催】公益財団法人横浜市緑の協会 ・こども陶芸教室 11/4(日)13時～15時 参加者25人 【内容】備前焼 【参加費】1,200円 【講師】須藤義明氏 ・親子クッキング教室「和菓子づくり」 1/26(土)13時～15時30分 参加者41人 <ul style="list-style-type: none"> 【内容】練り切り・茶饅頭・どら焼き・みたらし団子作り 【参加費】1,000円 【講師】御菓子処菊月社長 花博一氏 ・親子クッキング教室「おさかなクッキング」 2/2(土)10時～15時 参加者35人 <ul style="list-style-type: none"> 【内容】鯛の3枚おろし、アクアパッツァ・フライフィッシュ作り 【参加費】1,500円 【講師】長島由佳氏 <p>(3)野島海岸の保全活動 9/22(土)、11/23(土)、2/16(土) 毎回13時～14時30分 参加者355人</p> <ul style="list-style-type: none"> 【内容】海浜清掃、中高生ボランティアへの自然保護に関する説明(講師:海をつくる会 坂本昭夫氏) 【主催】オールクリーン野島ビーチ実行委員会 【協力】野島町内会、乙舳町内会、野島公園、金沢区社会福祉協議会 他 		
事業名	市民活動団体と協働した体験事業(金沢区受託事業)		
日時/回数	7/14(土) 10時～15時	場所	横浜市野島青少年研修センター及びその周辺
対象	金沢区在住の小中学生および保護者	参加者	17組
事業目的	・市民活動団体と協働して事業を実施することで、安全かつ充実した体験機会を提供する。		
実施内容	<p>・青少年に安全かつ充実した体験機会を提供するため、市民活動団体と協働して体験教室を実施した。「金沢の自然を満喫! 野島公園での自然体験」 【参加費】無料 【主催】金沢区役所</p> <p>【事前準備】</p> <p>(1)主催者(金沢区区政推進課)との打合せ (2)講師・スタッフの手配 (3)講師との打合せ</p> <p>【プログラム実施内容】</p> <p>(1)水路での生き物採取・観察 (2)砂浜でのレジンペレット集め (3)公園内フォトラリー (4)ちりめんモンスターを探せ!</p> <p>【講師】海をつくる会 畑井俊彦氏</p> <p>【事後の活動】</p> <p>(1)参加者アンケートの実施 (2)主催者とのふりかえり</p>		

事業施設課 野島青少年研修センター

事業名	困難を抱える青少年のための体験活動支援		
日時/回数	(1)11/21(水)～22(木)、(2)12/15(土)～16(日)、(3)通年	場所	横浜市野島青少年研修センター及びその周辺
対象	(1)ハートフルスペースに通う児童・生徒 (2)横浜市立小中学校個別支援学級の児童・生徒 (3)市内寄り添い支援事業に通う児童・生徒		
事業目的	・困難を抱える青少年に生活体験や集団活動の機会を他団体と連携して提供することで、コミュニケーション能力の向上や自信回復を図る。		
実施内容	<p>・困難を抱える青少年がコミュニケーション能力の向上や自信回復を図れるよう、生活体験や集団活動の機会を提供した。</p> <p>(1)不登校児童生徒の宿泊体験の実施</p> <p>・「ハートフルスペース宿泊体験」 11/21(水)11時～22(木)11時 参加者85人</p> <p>【内容】横浜市教育委員会のハートフルスペースに通う児童生徒を対象とした宿泊体験キャンプ(ボランティアの募集、日帰り活動もちつき体験の準備・食材発注・指導、レクリエーション・体験プログラムの指導、夕朝食の企画・食材発注・調理、キャンドルファイアー演出・指導他)</p> <p>【主催】横浜市教育委員会 【ボランティア】10人</p> <p>(2)障がいのある児童生徒の宿泊体験の実施</p> <p>・「野島クリスマスキャンプ」 12/15(土)16時～16(日)12時40分 参加者43人</p> <p>【内容】横浜市立小中学校個別支援学級に通う児童・生徒対象とした宿泊体験キャンプ(夕朝食手配、キャンドルファイアー・ティータイム・レクリエーション活動の補助)</p> <p>【主催】野島クリスマスキャンプ実行委員会 【ボランティア】44人</p> <p>【事前準備】実行委員会・事務局の業務(経理、後援申請報告、連絡調整、ボランティア募集、広報)</p> <p>【事前活動】ボランティア事前研修・ふれあいの会(参加者・保護者・ボランティアが理解を深める日帰り事業) 12/2(日)10時～15時 参加者56人</p> <p>(3)困難を抱える青少年を対象とした宿泊キャンプの実施</p> <p>a. 「わくわく生活キャンプ」 12/26(水)15時～27(木)14時30分 参加者11人</p> <p>【内容】寄り添い支援事業に通う青少年を対象とした宿泊体験キャンプ(夕朝食買出しと調理、ナイトウォーク、百人一首・かるた大会、餅つき) 【協賛】横浜金沢ロータリークラブ</p> <p>【事前準備】寄り添い支援事業運営団体に協力依頼と連絡調整、食事やレクリエーション等のプログラム企画</p> <p>b. 研修センターを利用した活動のサポート</p> <p>・ことぶき青少年広場デイキャンプ 10/14(日) 参加者20人</p> <p>・NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ宿泊キャンプ「オルタボイスキャンプ」 11/17(土)～18(日) 参加者57人</p> <p>・横浜市青少年相談センター宿泊キャンプ 10/8(月)～10(水) 参加者19人</p> <p>c. 中学校個別支援級が行う職業体験実習の受入</p> <p>・横浜市立西柴中学校個別支援学級 12/3(月)、4(火) 参加者 各5人</p>		
事業名	地域交流事業		
日時/回数	通年/48回	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	幼児から一般		
事業目的	・近隣地域と交流を深めることで、施設の活動及び青少年に対する理解を深めてもらう。		
実施内容	<p>(1)地域住民と連携した事業の実施</p> <p>・「陶芸教室」 5/12(土)、14(月)、15(火)、10/5(土)、6(土) 毎回10時～15時 参加者56人</p> <p>・健康事業「野島deコグニサイズ」 毎月第1・3火曜日各10時～11時30分 参加者938人</p> <p>(2)地域ネットワーク会議の開催</p> <p>野島町内会、乙船町内会、野島公園との防災や地域活動についての会議 5/10(木)、9/18(火)、12/11(火) 毎回14時～15時 参加者延べ19人</p> <p>(3)地域との防災への取組み</p> <p>・乙船野島合同防災訓練10/14(日)に参加</p> <p>・金沢区災害ボランティアネットワーク会議またはてんでんこ金沢(横浜市協働事業)への参加 毎月1回</p> <p>・てんでんこ金沢事業「親子防災学習」 7/15(日)、「親子防災DAYキャンプ」 8/14(火)、「地震・津波から金沢区の子ども達を守る講演会」及び被災地の学生語り部お話し会 8/22(水)、「出前授業」 11/10(土)に参加</p> <p>(4)のじまオープンデー2019 2/24(日)13時～15時30分 参加者310人</p> <p>【内容】のじまくん・バードコール作り、パフェ作り、アカテガニ写真展、館内探検、卓球ゲーム、地域作業所製品販売</p> <p>【連携】NPO法人もくもく 【ボランティア】22人</p>		

総務課

D:その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

事業名	賛助会員及び一般寄附者の拡充 賛助会員制度を含む寄附金制度の充実		
日時/回数	通年		
対象	市民		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・法人活動への関心、理解を促す。 ・青少年育成寄附金募集及び賛助会員の獲得。 ・自主財源率の引き上げ。(協約目標：寄附金180万円) 		
実施内容	<p>(1)賛助会員・寄附金の管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データベースの管理(入退会、更新、寄附状況等) ・協力者のユースレターへの掲載 <p>(2)賛助会員の募集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現会員の維持(ユースレターの発行と送付 等) ・新規会員の募集(法人内における協力要請、HPによる募集) ※新規会員5件 ・会員向け(会員募集)事業の実施…陶芸体験教室 3/17(日)14時~16時 参加者18人 <p>(3)寄附金の募集 募集案内(振込用紙)の発送と配布(賛助会員、事業参加者等)</p> <p>(4)新規会員獲得の一環として、支払いやすさを目的としてインターネットバンキング口座を作成した。</p> <p>(5)新春のつどい…1/28(月) ホテル横浜ガーデン 参加者86人 ※当日寄附：7,500円</p>		
事業名	寄附金拡充を目的とした収益事業 第58回 爆笑!濱っ子寄席		
日時/回数	11/15(木)	場所	関内ホール 大ホール
対象	賛助会員及び市民	定員	1,034人 ※入場者数 932人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・法人の取り組みについて市民や企業等に、広く周知するとともに、理解を深める機会をとする。 ・協賛、参加費(入場料)、寄附金を募る。 		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・よこはまユース賛助会費及び市民を対象とした寄附金募集の一環として実施 【実行委員会】5/17(木)、7/25(水)、10/24(水)、2/21(木) 【チケット販売数】S席3,500円 439枚、A席2,500円 328枚 B席1,000円 118枚 計885枚(昨年度652枚)(招待73枚) 【入場者数】932人(昨年度708人) 関内ホール座席1,034席(改修前/昨年度1,098席) 【広告等協賛数】広告協賛54件(昨年度57件)、共催・後援協賛6団体 【出演者】柳家ほたる、桃月庵白酒、柳家小三治、三遊亭歌之介、柳家権太楼 【当日募金(寄附金)額】150,909円(昨年度105,474円) 内訳：募金箱84,909円、手ぬぐい66,000円 【収益(寄附金繰入額)】1,026,697円(昨年度378,532円) ・共同主催：横浜中法人会 ・共催：横浜市子ども青少年局・横浜青年会議所、後援：横浜金沢ロータリークラブ、横浜港南台ロータリークラブ、横浜みなとみらいラインズクラブ、横浜南ロータリークラブ、横浜ロータリークラブ 		
事業名	法人の広報・PR		
日時/回数	通年	媒体	法人情報紙/法人ホームページ他
対象	会員、寄附者、市民等		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・法人全体の広報戦略の一環としてWebを活用しさまざまな情報を発信する。 ・各施設や部門における事業をアピールし、参加者増加につなげる。 		
実施内容	<p>(1)よこはまユースレター(法人情報紙)の発行：発行回数3回 A4版 30,000部発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業や運営に関する情報等を周知し、賛助会員並びに寄附、事業協力者へ報告した。 ・内容の工夫(表面での特集記事、担当者が作成することで修正の迅速対応)、HP及SNSでの公開 <p>(2)法人ホームページの維持・管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの管理(サーバー管理委託事業者への連絡調整、メンテナンス管理、各事業所の運用管理 等) ・法人情報の公開(予算決算・事業計画等/求人情報) ・アクセス数の管理(トップページビジット数：428,724vt 上206,700、下222,024。各事業所ページのビュー報告) ・ウェブアクセシビリティのチェック <p>(3)SNSの開設(ルールの整備、ビューの報告 他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ツイッター5月開設：フォロワー105件、Facebook12月開設：フォロー122人(各3/31現在) 		
事業名	職員の人材育成		
日時/回数	通年		
対象	法人職員		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・法人職員として身に付けるべき技能・力量形成に必要な研修を実施し、青少年支援や中間支援組織としての法人全体の実力を高めていく。 		
実施内容	<p>(1)職員養成計画の策定(協約事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職種及び階層別の3か年の養成(研修)計画案の作成 ・研修参加に伴う業務出張の基準作成 ・研修報告様式の統一 <p>(2)新採用職員研修、実務専門研修、管理職研修、人権研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新採用研修(随時) ・階層別研修の実施…係長を内閣府研修に派遣11/12(月)~11/14(水)、管理職向けハラスメント研修の実施2/26(火) ・階層別ビジネススキルテストの実施(8~9月) ※外部テストの導入 ・人権研修の実施 1/16(水)、17(木) テーマ「性的マイノリティと人権」 		

V 事業の公益性と収益事業について

公益法人認定法第 22 条第 1 項の規定に基づき、当法人の平成 30 年度事業報告書を行政庁へ提出するために定められた書式により、事業の公益性及び収益事業について報告する。

個別の事業内容について

(1) 公益目的事業について

事業番号	事業の内容	当該事業の事業比率	
公 1	すべての青少年が周囲の人々から見守られ、人のつながりの中で成長することができる社会を醸成するとともに、青少年にさまざまな体験機会を提供し、その成長を促す事業	96.4	%

〔1〕事業の概要について

A 青少年活動を支援する事業

A - I 青少年活動を支援するための青少年施設の貸出

この事業は、青少年育成活動を展開する安全で効果的な場を提供することで、青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。

横浜市内で行われている青少年の居場所づくり、就労体験、社会体験、自然科学体験活動等を企画、実施するための指導者・育成者による打ち合わせや準備、実際の活動の場として施設を提供するとともに、学校や普段の生活の中では体験しにくいバンド活動、演劇、表現活動や集団での宿泊体験活動等の青少年の主体的な活動の場として広く青少年に提供するために、職員が情報提供や運営補助等の支援を行っています。

事業にはいくつかの種類がありますが、さまざまな活動の場を提供する同一事業です。

事業の特色としては、青少年の指導者・育成者の活動拠点(青少年育成センター)、青少年の主体的な活動拠点(青少年交流・活動支援スペース)、青少年の集団宿泊体験活動拠点(野島青少年研修センター)の機能を有機的に結びつけ、青少年及び青少年の育成を目的としているすべての個人・団体が活動の場として、施設を安全で効果的に利用していただくための利用相談や事前打ち合わせ、情報提供を行うとともに、活動中の安全の確保並びに運営の補助を職員が行っています。また、施設料は青少年及び青少年の育成を目的としている個人・団体、すべての人が活動の場として利用しやすい金額に設定しています。

なお、法人がさまざまな青少年育成活動実施のため、横浜市が「横浜市青少年施設条例」により設置している指定管理施設(青少年育成センター、野島青少年研修センター)に加え、青少年の交流・活動支援事業の一環としての「青少年交流・活動支援スペース」を管理運営し、貸し出しています。

これら施設の特徴や利用案内に関しては、施設パンフレット及びホームページに概要を掲載し広く一般に周知しています。

事業の財源は、施設利用料、横浜市からの指定管理料及び補助金並びに一般寄附金で構成されています。

《事業内容(施設の開館日数・利用状況)》

■青少年交流・活動支援スペース

□開館日数：347日

□青少年利用状況：38,363人(1日平均110人)

□フリースペース利用の青少年：13,877人

□利用促進のための取組

- ・交流、読書、学習の各スペースの運営、ロビーワークの実施
- ・Twitter等による広報、街頭ティッシュ配布、利用者ニーズ調査、小中校長会やPTA連絡協議会におけるPR等

■青少年育成センター

- 開館日数：330日
- 研修室・スタジオ：利用件数2,834件（41,066人）
- 印刷室利用件数：85件
- 利用促進事業

・交流スペースの開設、青少年育成の講座・研修などの情報をFacebookなどのSNSで発信

■野島青少年研修センター

- 開館日数：359日
- 利用可能日：319日
- 利用日数：277日
- 宿泊：団体466件（21,618人）
- 日帰り：団体349件（15,359人）
- 合計：団体815件（36,977人）
- 利用促進事業

- ・近隣の小学校（7校）、中学校（3校）、高等学校（7校）を訪問し、部活動や生徒会活動での利用を誘致
- ・大学（2校）、企業の職員研修利用誘致のための広報活動
- ・横浜市立大学体育会部活広報紙への広告掲載
- ・市外の学校の利用を誘致するため（公財）横浜コンベンション・ビューローの協力によりホームページ「教育旅行」ページに施設情報を掲載

A - II 青少年活動を支援するための相談・助言・コーディネート【相談事業】

この事業は、青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成することにより青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。

横浜市内で行われている青少年の居場所づくり、就労体験、社会体験、自然科学体験活動等に係ることにより青少年自らが学び育つ機会を提供するために相談・助言・コーディネートの支援を行っています。

事業にはいくつかの種類がありますが、活動内容は「相談、助言」事業に分類されます。事業の特色としては、活動希望者の経験や希望を踏まえ、活動の内容紹介（活動実施）、活動の企画・運営に関する相談・助言及びボランティアを必要とする団体や施設に活動希望者の紹介を行っています。これらの相談業務の対象は、青少年及び青少年の育成を目的としているすべての個人・団体を対象としています。

また、情報発信・相談・助言すべての活動を職員により実施しています。活動の実施を希望する個人・団体に対し、活動の実施に関する知識・ノウハウ等を提供し、青少年の活動を実りあるものにするために相談・助言を行っています。

これらの事業内容及び相談窓口に関しては、施設パンフレット及びホームページに概要を掲載し広く一般に周知しています。

事業の財源は、横浜市からの指定管理料及び補助金並びに一般寄附金から構成されています。

《事業内容》

■青少年育成センター

- 青少年育成に関わる相談：相談件数71件（通年）
 - ・青少年育成活動などに関する問い合わせや相談、青少年に関する市民、青少年からの相談の「一次的窓口」として開設
 - ・相談スタッフのケース会議（年12回）でケース検討
- ホームページ等を使った情報提供
 - ・青少年育成の講座・研修情報、青少年施設情報をHP、FacebookなどのSNSで情報提供
 - ・「ユースライブラリー（情報コーナー）」の開設

■青少年交流・活動支援スペース

□相談支援事業

- ・日常的な相談支援：ロビーや受付での日常的な会話を通じた相談・傾聴件数：625件
- ・個別相談：家庭や学校生活のトラブル、アルバイトや就職など 個別相談件数：114件
- ・啓発事業：青少年対象「LGBT パネル展」64人
保護者向けセミナー「ネット SNS の安心安全」10人

A - III 青少年活動を支援するための活動参加型の相談・コーディネート

この事業は、青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成することにより青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。

横浜市内で実施されている青少年活動を継続及び充実していくため、職員が活動現場に出向き、活動を企画・実施する指導者・育成者に相談・助言・コーディネートの支援を行っています。

事業にはいくつかの種類がありますが、活動内容はすべて活動参加型であり「相談、助言」事業に分類されます。

事業の特色としては、活動組織の構成や規模、活動内容や希望に従い、必要とされる要件を満たすために、事務局業務の補助や活動プログラムの企画への相談・助言、ボランティア（人材）の紹介、人材育成や啓発のための講師の派遣、他の活動団体や機関等のコーディネート等多様な支援を行っています。

これらの業務の対象は、青少年及び青少年の育成を目的としているすべての個人・団体を対象としています。相談・助言業務は、青少年活動に精通した職員が実施し、活動の継続及び充実のための相談・助言を行うほか、情報収集や情報共有を図るためのネットワークの構築や実施内容をホームページに概要を掲載しています。

事業の財源は、横浜市からの指定管理料及び補助金並びに一般寄附金から構成されています。

《事業内容》

■事業企画課

□知っておきたい！子ども・若者どこでも講座：63件

地域の団体や学校、PTA 等が主催する青少年課題をテーマとした研修や講座へ講師を派遣

□青少年の育成に係る活動の支援

- ・地域の青少年の育成活動、居場所の活動・支援（岡村地区・十日市場中学校区 他）
- ・学校内での居場所づくり支援（横浜総合高校「ようこそカフェ」）：参加者 5,519人
- ・CSR 活動の支援・推進

□活動の相談・助言

- ・活動相談（相談、助言、活動プランニング）：相談・支援件数：45件

■キッズ運営課

□都筑区内放課後キッズクラブ運営 NPO 法人設立支援

- ・情報交換会・勉強会(6/25) 参加者：5キッズクラブ 7人
- ・事例検討会・情報交換会(12/5)

参加者：キッズクラブ(3か所)、はまっ子ふれあいスクール(2か所)計13人

- ・相談・助言2件

- ・放課後キッズクラブ通信発行4回

□放課後キッズクラブ(27か所)の安定的運営と地域人材を活用したプログラムの実施

- ・実施プログラム数(27か所)、年間4,764回 参加者：延べ102,813人

A - IV 青少年育成活動に活用できる資源の調査、資料収集

この事業は、青少年育成活動に活用できる体験活動の資源を調査し、青少年の育成活動を行っている団体及び小中高校に提供することで、青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。

横浜市内で行われているNPOや企業のCSR活動等青少年育成活動や学校の体験学習が

連携することで、青少年自らが学び育つ体験活動の領域拡大や活動機会を充実するため、職員が横浜市内に活動拠点を置くNPOや企業等の活動の調査を行っています。

事業は、体験プログラムの企画・実施に活用してもらえる情報やプログラム開発のための調査・研究に取組み、その成果を体験プログラムとして無料で配布するとともに、ホームページで周知しています。なお、提供した情報に関する相談は、青少年及び青少年育成を目的としているすべての個人・団体を対象とし、問い合わせには職員が対応しています。調査・研究業務は職員が主体となって行いますが、専門分野における団体の活動状況や内容等に関しては必要な専門団体等と一緒にしています。

事業の財源は、横浜市からの補助金及び指定管理料並びに一般寄附金から構成されています。

《事業内容》

■事業企画課

□調査・研究事業

- ・青少年に関する意識調査「中高生の放課後の過ごし方と体験活動に関するアンケート調査」
- ・研究・活動報告事例集「YOKOHAMA EYE'S」発行：1,200部

■野島青少年研修センター

□体験プログラムの調査研究

- ・自然体験キャンプ参加者を対象とした調査
- ・寄り添い支援事業の運営団体を対象としたニーズ調査結果をもとにした事業の実施
- ・体験プログラム利用校を対象とした調査

B 青少年を支える人材を育成するための事業

B-I 青少年を支える人材を育成するための講座・研修

この事業は、青少年を支える人材を育成することで青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成し、青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。

青少年及び青少年育成に関する知識や技能を習得することで、青少年育成への理解が深まり、青少年育成活動が普及するとともに、青少年自らが学び育つ機会を充実するための人材育成を行っています。

事業にはいくつかの種類がありますが、活動内容はすべて「講座、セミナー、育成」事業に分類されます。

事業の特色としては、日々の青少年育成活動の実践を通じて収集した課題や習得した知識や経験等から職員が青少年育成活動に必要なテーマを検討し、年間プログラムを企画の上、ホームページ、チラシ、広報等を通じ広く一般に周知し、すべての人が参加可能な講座・研修を実施しています。講座・研修の参加費は無料、教材費や資料代は実費としており、参加しやすい設定にしています。

研修(講師等)は職員または外部の専門機関に依頼しています。

事業の財源は、横浜市からの補助金及び指定管理料並びに一般寄附金から構成されています。

《事業内容》

■事業企画課

□啓発事業

- ・子ども・若者エンパワメントセミナー 11/28、参加者：249人
- ・情報交換会・勉強会 5/16、参加8団体(18人)、2/14、参加21団体(29人)

■キッズ運営課

□横浜市放課後児童育成事業人材育成研修 参加者：3,985人

- ・中間支援機能を発揮した、放課後3事業、届出事業所スタッフの人材育成研修を実施

■青少年交流・活動支援スペース

□青少年サポーター育成事業

- ・青少年がより「相談しやすい」環境を作るため、職員と青少年とをつなぐ、大学生以上の支援ボランティアを育成 活動者：89人

□保護者への啓発事業

- ・保護者向けセミナー「ネット SNS の安心・安全」：1/17、参加者 10人

■青少年育成センター

□青少年育成活動初任者養成事業

- ・青少年育成活動初任者研修「イマドキの子どもの理解と支援」5/24、参加者：49人
- ・発達障がいの子どもの理解と支援講座」7/18、参加者：48人
- ・「イキイキとしたコミュニケーションをつくるコーチング手法」10/17、参加者：10人
- ・「すぐに役立つ、科学工作、科学あそび」9/2、9/3、参加者：25人

□青少年育成活動を充実するための研修・講座

- ・「青少年の居場所づくり講座」：全5回、参加者：延べ107人
- ・「青少年の居場所づくり」全国フォーラム 3/16、参加者：108人
- ・「コーチングステップアップ研修」10/24、参加者：7人
- ・「リスクマネジメント研修」3/15、参加者：30人
- ・「これで安心、SNS活用した広報・PR」2/20、2/27、参加者：45人
- ・「魔法のホワイトボード・ミーティング」6/23、参加者：24人
- ・青少年団体、青少年機関との協働事業 4団体と協働

□指導者・支援者相互の交流を通じて課題を解決する研修・講座

- ・よこはまユースゼミ：全5回、参加者：延べ52人
- ・「横浜子ども・青少年に関わる活動関係者の大交流会」2/25、参加者：88人

□青少年が抱える課題の解決を支援する研修・講座

- ・ユースコーディネーターの養成研修：全4回、参加者：延べ114人

■野島青少年研修センター

□青少年指導者育成者研修

- ・「みんなでつくろう！キャンプファイアーinのじま」4/28 参加者：32人
- ・指導者・育成者への情報提供、相談支援

□ボランティアの養成

- ・事業や体験プログラムでのボランティアの受け入れと活動支援
15事業、活動者：延べ504人
- ・施設ボランティア「のじボラ」の養成 登録者：36人
- ・「海あそびde ボランティア」4回、参加者：延べ24人

C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業

C - I 青少年に体験機会や活動の場を提供する多様な体験事業

この事業は、青少年が学校や家庭では体験しにくい多様な体験活動に参加することで、青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。

青少年が体験を通じ自ら感じ考えることで学び育つことができる就労体験、社会体験、自然科学体験、集団宿泊体験機会を提供するための体験事業を企画・実施しています。

事業にはいくつかの種類がありますが、活動内容は「体験活動」事業に分類されます。

事業の特色としては、集団で協力して目標を達成していく過程で青少年が社会性や協調性を育み自ら成長していくことができるよう、集団や個人の特性に応じて活動領域や手法を変え、すべての青少年を対象として職員が企画した体験活動を、ホームページ、事業チラシ、広報等を通じて広く周知し実施しています。実施場所は、横浜市内の公営の青少年施設、野外活動施設等を中心に活用し、参加費は無料、教材費や施設利用料（宿泊費等）を実費としており、青少年が参加しやすい設定にしています。

事業の財源は、横浜市からの指定管理料、委託料及び補助金並びに一般寄附金で構成されています。

《事業内容》

■事業企画課

- 自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供
 - ・団体との連携事業
 - 開港祭体験ブース出店 6/1～2
 - 漁業就業体験 7/26～29 参加者：7人
 - 農業就業体験 8/2～4 参加者：10人
 - 道志村児童受入れ事業 10/4～5 参加者：小学校5年生11人
- 寄り添い型支援事業「かもん未来塾」の運営
毎週月～金曜日の14時～19時、火・木曜日の14時～21時、登録者：20人

■青少年交流・活動支援スペース

- 青少年の交流・体験事業
 - ・交流促進事業（アクセサリーづくり体験、パンケーキカフェ、紅茶交流会 他）
12事業 参加者：延べ127人
 - ・読書活動推進事業（朗読劇「7月の涙、夕日夜の花束」）参加者：19人
 - ・青少年チャレンジ事業（光の科学、書道体験、c.Fuウォーク、DNA科学教室 他）
4事業 参加者：延べ109人
- 社会参加プログラム
 - ・社会体験・就労体験活動
 - 社会見学ツアー（「LED栽培工場」、「横浜市東部病院」）2回、参加者：15人
 - 若者インターンシップ事業（野菜販売体験）参加者：14人
 - ・青少年ボランティア事業（夏期ボランティア体験、高校生水源林ボランティア 他）
36回 参加者：延べ412人
 - ・青少年委員会の運営 登録委員：8人、活動17回、活動人数：延べ66人
 - ・実習の受入（「社会教育実習の受入」：延べ94人、「中学生職業体験の受入」：延べ26人）
- 異世代交流促進事業
 - ・地域交流事業（「さく Livi ポテトファーム」参加者：6人、「大岡川さくらまつりフリマ」参加者：7人）
 - ・若者コミュニティー事業（「ラテアート」参加者：7人、「ワイン講座」参加者：17人、「カタン大会」参加者：11人）
- 青少年支援事業
 - ・小中学生を対象とした居場所づくり（「みはらし教室」の実施等 40回、参加者：167人、「青少年支援団体の活動支援」21回、参加者：80人）

■野島青少年研修センター

- 体験プログラムの提供
 - ・施設特性を活かしたプログラム（「野島カーリー」他）参加者：延べ12,625人
 - ・自然環境を活かしたプログラム（「いかだ作り」他）参加者：延べ10,730人
 - ・地域産業と連携によるプログラム（「プレミアム探検ツアー」）参加者：32人
 - ・Kids&Junior 防災キャンプ 参加者：31人
- 市民活動団体と協働した体験プログラムの実施
 - ・自然体験キャンプ（1泊2日）
 - 「カヌー体験キャンプ in 野島」2回、参加者：86人
 - 「のじまチャレンジキャンプ」参加者：38人
 - 「秘密基地づくり」参加者：34人
 - ・自然体験・文化体験教室（日帰り）
 - 「海の生き物観察会」参加者：51人
 - 「カヌー体験教室」参加者：49人
 - 「こども陶芸教室」参加者：25人

- 「親子クッキング教室」
(和菓子づくり 参加者：41人、おさかなクッキング 参加者：35人)
- ・野島海岸の保全活動（オールクリーン野島ビーチ）3回、参加者：355人
- 困難を抱える青少年のための体験活動支援《3事業》
- ・「ハートフルスペース宿泊体験」11/21～22、参加者：85人、ボランティア10人
- ・「野島クリスマスキャンプ」12/15～16、参加者：43人、ボランティア44人
- ・困難を抱える青少年を対象とした宿泊キャンプの実施
- 「わくわく生活キャンプ」12/26～27、参加者：11人
- 「プログラムのサポート」3回、参加者：96人
- 中学校個別支援学級職業体験実習の受入 1校 12/3、12/4、参加者：各5人
- 地域交流事業
- ・地域住民と連携した文化活動教室
- 「陶芸教室」の共催 5回、参加者：延べ56人
- 「野島 de コグニサイズ」の共催（毎月第1・3火曜日）参加者：延べ938人
- ・地域ネットワーク会議 3回、参加者：延べ19人
- ・地域との防災の取組み
- 乙舩野島合同防災訓練 10/14
- 金沢区災害ボランティアネットワーク会議又は、てんでんこ金沢への参加 毎月1回
- てんでんこ金沢事業「親子防災学習」他3事業
- ・のじまオープンデー 2/24、参加者：延べ310人

C - II 小学生を育むための放課後の安全な遊び場と集団活動の場を提供する事業【放課後児童育成】

この事業は、小学生に放課後の安全な遊び場と集団活動の場を提供することにより、青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。現在、放課後児童育成活動として、放課後キッズクラブを運営し、小学生が集団での遊びや体験活動を通じ、自ら学び育つ機会を提供するため、小学校に在籍するすべての児童を対象とした体験活動を行っています。

事業の特色としては、横浜市の放課後児童育成施策に基づき、学校では得られない体験機会の設定、子どもたちの成長や発達に応じたプログラム、プログラム内容の継続性、異年齢児の交流やリーダー養成への取り組み、ボランティアの協力、市民や企業の協力を大切にするという視点を持った体験活動を職員が企画・実施しています。実施場所は学校施設及び公営施設等で、日祝日を除く毎日活動を行っています。

活動の内容や案内などの資料を職員が毎月作成し、地域及び対象となる児童すべてに無料配布し、事業を広く周知しています。

活動への参加は無料、教材費や交通費等は実費としており、参加しやすい設定にしています。ただし、放課後から19時までの利用に関しては横浜市放課後キッズクラブ事業実施要綱に定められた利用料の負担があります。

当事業の財源は、夜間利用料及び横浜市からの補助金で構成されています。

《事業内容》

■キッズ運営課

- 27か所の放課後キッズクラブ運営
- ・参加児童数 月平均（27か所）約1,371人、総計（27か所）429,124人
※（参考）3月開所の城郷小学校放課後キッズクラブ 参加児童数：1,005人
- ・登録率（27か所）52.0%
- ・実施プログラム数（27か所）年間4,764回 参加者：延べ102,813人
- 会議・スタッフ研修等
- ・評議会（年2回）52回
- ・保護者会（年2～3回程度）53回
- ・主任会議・副主任会議 13回
- ・主任・副主任研修 6回、非常勤職員研修 4回
- 高校生インターンシップの受入れ 6人

《各キッズクラブ概要》※開設順

■太田小学校キッズクラブ（南区）

- 在籍人数：258人
- 登録人数：172人
- 延べ参加児童数：9,277人
- プログラム実施数：140回
- プログラム参加人数：2,411人
- 主なプログラム：映画を見にこう、バトミントン、いちご狩り、風船バレーなど

■港南台第三小学校キッズクラブ（港南区）

- 在籍人数：275人
- 登録人数：163人
- 延べ参加児童数：12,247人
- プログラム実施数：216回
- プログラム参加人数：4,057人
- 主なプログラム：ヨット体験乗船、フラダンス教室、囲碁、将棋、クワガタ研究会など

■笹野台小学校キッズクラブ（旭区）

- 在籍人数：588人
- 登録人数：360人
- 延べ参加児童数：21,437人
- プログラム実施数：287回
- プログラム参加人数：5,378人
- 主なプログラム：紙粘土でケーキ作り、和太鼓、編み物教室、スポーツチャンバラなど

■能見台小学校キッズクラブ（金沢区）

- 在籍人数：419人
- 登録人数：242人
- 延べ参加児童数：11,264人
- プログラム実施数：168回
- プログラム参加人数：2,648人
- 主なプログラム：ドッジボール、わりばしヒコーキ、フラダンス、うちわ作りなど

■長津田小学校キッズクラブ（緑区）

- 在籍人数：763人
- 登録人数：386人
- 延べ参加児童数：20,269人
- プログラム実施数：302回
- プログラム参加人数：7,236人
- 主なプログラム：野球教室、バドミントン、科学教室、絵本ライブなど

■折本小学校キッズクラブ（都筑区）

- 在籍人数：760人
- 登録人数：371人
- 延べ参加児童数：23,294人
- プログラム実施数：254回
- プログラム参加人数：3,712人
- 主なプログラム：ハープとフルートの演奏会、ヨット体験乗船、スノードーム、茶道など

■秋葉小学校キッズクラブ（戸塚区）

- 在籍人数：819人
- 登録人数：493人

- 延べ参加児童数：24,160人
- プログラム実施数：340回
- プログラム参加人数：6,710人
- 主なプログラム：いちご狩り、七夕飾り、梅ジュース作り、バルーンアートなど

■南瀬谷小学校キッズクラブ（瀬谷区）

- 在籍人数：803人
- 登録人数：307人
- 延べ参加児童数：16,669人
- プログラム実施数：132回
- プログラム参加人数：5,749人
- 主なプログラム：おはなしボンボン、おたのしみ会、カレンダー作り、収穫祭など

■寺尾小学校キッズクラブ（鶴見区）

- 在籍人数：682人
- 登録人数：368人
- 延べ参加児童数：20,258人
- プログラム実施数：178回
- プログラム参加人数：4,847人
- 主なプログラム：トスペース、ヨット体験乗船、キッズ屋台、フォトフレームづくりなど

■宮谷小学校キッズクラブ（西区）

- 在籍人数：849人
- 登録人数：421人
- 延べ参加児童数：22,572人
- プログラム実施数：208回
- プログラム参加人数：6,292人
- 主なプログラム：海苔づくり体験、水墨画、マフラーづくり、キッズダンスなど

■本町小学校キッズクラブ（中区）

- 在籍人数：566人
- 登録人数：263人
- 延べ参加児童数：20,340人
- プログラム実施数：238回
- プログラム参加人数：3,360人
- 主なプログラム：海苔づくり体験、チェス、サンドボトル作り、ドッジボール大会など

■岡村小学校キッズクラブ（磯子区）

- 在籍人数：361人
- 登録人数：212人
- 延べ参加児童数：11,091人
- プログラム実施数：199回
- プログラム参加人数：3,305人
- 主なプログラム：紙飛行機を飛ばそう、親子で木工教室、ハーバリウム、わらじ作りなど

■日吉南小学校キッズクラブ（港北区）

- 在籍人数：885人
- 登録人数：441人
- 延べ参加児童数：27,470人
- プログラム実施数：91回
- プログラム参加人数：3,106人
- 主なプログラム：ドッジボール、オセロ大会、防災スリッパ制作、アイロンビーズなど

■すずき野小学校キッズクラブ（青葉区）

- 在籍人数：155 人
- 登録人数：75 人
- 延べ参加児童数：6,284 人
- プログラム実施数：156 回
- プログラム参加人数：2,136 人
- 主なプログラム：ドリームキャッチャー作り、ペタンク、人形劇、木の枝工作など

■桜井小学校キッズクラブ（栄区）

- 在籍人数：361 人
- 登録人数：219 人
- 延べ参加児童数：11,631 人
- プログラム実施数：81 回
- プログラム参加人数：1,881 人
- 主なプログラム：プラバン、壁画装飾、パン作り、茶道、プログラミング教室など

■名瀬小学校キッズクラブ（戸塚区）

- 在籍人数：533 人
- 登録人数：330 人
- 延べ参加児童数：14,619 人
- プログラム実施数：137 回
- プログラム参加人数：4,763 人
- 主なプログラム：ブーメラン作り、囲碁、メッセージカード作り、カプラなど

■浦島小学校キッズクラブ（神奈川区）

- 在籍人数：532 人
- 登録人数：294 人
- 延べ参加児童数：21,796 人
- プログラム実施数：156 回
- プログラム参加人数：3,460 人
- 主なプログラム：3B体操、ハンドベル、ダンス、ハスの花ランタン作りなど

■瀬ヶ崎小学校キッズクラブ（金沢区）

- 在籍人数：354 人
- 登録人数：184 人
- 延べ参加児童数：10,036 人
- プログラム実施数：119 回
- プログラム参加人数：1,493 人
- 主なプログラム：ドッジボール、フラワーアレンジメント、かき氷、詩吟など

■南小学校キッズクラブ（南区）

- 在籍人数：496 人
- 登録人数：213 人
- 延べ参加児童数：12,598 人
- プログラム実施数：204 回
- プログラム参加人数：3,520 人
- 主なプログラム：壁画装飾、粘土でクッキー作り、風鈴作り、コースター作りなど

■永田小学校キッズクラブ（南区）

- 在籍人数：555 人
- 登録人数：274 人
- 延べ参加児童数：15,240 人

- プログラム実施数：142回
- プログラム参加人数：3,629人
- 主なプログラム：グランドゴルフ、ミニバスケットボール教室、陶芸教室、田植えなど

■上矢部小学校キッズクラブ（戸塚区）

- 在籍人数：671人
- 登録人数：346人
- 延べ参加児童数：19,293人
- プログラム実施数：138回
- プログラム参加人数：4,060人
- 主なプログラム：親子で流しそうめん、英語で遊ぼう、キッズ縁日、卓球大会など

■飯島小学校キッズクラブ（栄区）

- 在籍人数：557人
- 登録人数：297人
- 延べ参加児童数：17,346人
- プログラム実施数：310回
- プログラム参加人数：3,869人
- 主なプログラム：紙飛行機大会、しめ縄作り、風鈴作り、アイロンビーズなど

■瀬谷さくら小学校キッズクラブ（瀬谷区）

- 在籍人数：446人
- 登録人数：191人
- 延べ参加児童数：11,458人
- プログラム実施数：122回
- プログラム参加人数：3,723人
- 主なプログラム：収穫体験、紙飛行機、ペットボトルボウリング大会、パステルアートなど

■十日市場小学校（緑区）

- 在籍人数：607人
- 登録人数：294人
- 延べ参加児童数：15,567人
- プログラム実施数：90回
- プログラム参加人数：2,040人
- 主なプログラム：近隣中学校サッカー部との交流、スポーツチャンバラ、しおり作りなど

■上寺尾小学校キッズクラブ（鶴見区）

- 在籍人数：597人
- 登録人数：326人
- 延べ参加児童数：18,977人
- プログラム実施数：319回
- プログラム参加人数：8,513人
- 主なプログラム：フラダンス、ドッジボール、クラフトかご作り、英語を学ぼうなど

■和泉小学校キッズクラブ（泉区）

- 在籍人数：359人
- 登録人数：193人
- 延べ参加児童数：12,926人
- プログラム実施数：35回
- プログラム参加人数：818人
- 主なプログラム：バドミントン大会、ミニバスケット、かるた大会、折り紙教室など

■城郷小学校キッズクラブ（港北区：3月開設）

在籍人数：608人

登録人数：298人

延べ参加児童数：1,005人

プログラム実施数：2回

プログラム参加人数：88人

主なプログラム：万華鏡づくり、ぐにゃぐにゃ凧作り

〔2〕事業の公益性について

定款（法人の事業又は目的）上の根拠		第4条第1項第1号、第2号、第3号
事業の種類 (別表の号)	(本事業が、左欄に記載した事業の種類に該当すると考えられる理由を記載してください)	
7	<p>この事業は、すべての青少年が周囲の人々から見守られ、人のつながりの中で成長していくことができる社会を醸成するとともに、青少年育成活動への相談・助言・コーディネート及び青少年育成活動のための情報収集、青少年や青少年育成活動を支える人材育成のための講座・研修、青少年に体験機会を提供するための事業を実施するものであり、さまざまな体験を通じ青少年が自ら学び育つ機会を提供することにより、未来を担う青少年の成長に寄与することを目的としているため、「児童又は青少年の健全な育成を目的とする事業」であると考えます。</p>	
(本事業が不特定多数の者の利益の増進に寄与すると言える事実を記載してください。)		
チェックポイント事業区分	チェックポイントに該当する旨の説明	
<p>(1 1) 施設の貸与 区分ごとのチェックポイント</p> <p><1>当該施設の貸与が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p><2>公益目的での貸与は、公益目的以外の貸与より優先して先行予約を受け付けるなどの優遇をしているか。</p>	<p>A - I 青少年活動を支援するための青少年施設の貸出</p> <p><1>この事業は、青少年の育成活動を展開する場の提供を行う事業です。青少年育成活動に精通した職員により実施される活動に対する安全の確保、活動の効果をより高めるための情報提供、活動の運営補助等の支援を行うことにより、青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成することを目的として位置付けています。ホームページにおいて施設ごとに専用ページを設置して施設の特徴や利用方法等を広く公開しています。</p> <p><2>青少年及びその指導者・育成者が実施する青少年育成活動のための貸与は、一般の予約よりも優先されており、また利用料も優遇しています。その情報はホームページにより公開しています。</p>	
<p>(5) 相談、助言 区分ごとのチェックポイント</p> <p><1>当該相談、助言が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p><2>当該相談、助言を利用できる機会が一般に開かれているか。</p> <p><3>当該相談、助言には専門家が適切に関与しているか。</p>	<p>A - II 青少年活動を支援するための相談・助言・コーディネート【相談事業】</p> <p><1>青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成することにより青少年の健全な育成を目的とした事業で、その内容はパンフレット、ホームページで広く一般に公開しています。</p> <p><2>この事業はすべての人を対象としており、相談、助言の受付時間、申込方法等はパンフレット及びホームページにより公開され、利用できる機会は一般に開かれています。</p> <p><3>相談・助言は青少年活動に精通した職員が行っており、関係機関情報誌等により情報収集を行っています。また、職員は横浜市青少年相談センターの専門研修、県リードアップセミナー、個人情報保護に関する研修、児童の人権に関する研修を受講し、この事業に必要な専門性を維持しています。</p>	

<p>(5) 相談、助言 区分ごとのチェックポイント</p> <p><1>当該相談、助言が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p><2>当該相談、助言を利用できる機会が一般に開かれているか。</p> <p><3>当該相談、助言には専門家が適切に関与しているか。</p>	<p>A - III 青少年活動を支援するための活動参加型の相談・コーディネート</p> <p><1>青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成することにより青少年の健全な育成を図るため、横浜市内で実施された青少年育成活動の継続及び充実していくための支援を目的としています。実施した内容を取りまとめた資料は配布し、また、ホームページに概要を掲載し公開しています。</p> <p><2>この事業は横浜市で実施されている活動に参加した人すべてを対象としており、パンフレット、ホームページ、窓口で案内しています。</p> <p><3>相談・助言は青少年活動に精通した職員が行っており、関係機関情報誌等により情報収集を行っています。また、職員は市青少年相談センターの専門研修、個人情報保護に関する研修、児童の人権に関する研修を受講し、この事業に必要な専門性を維持しています。</p>
<p>(6) 調査、資料収集 区分ごとのチェックポイント</p> <p><1>当該調査、資料収集が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p><2>当該調査、資料収集の名称や結果を公表していなかったり、内容についての外部からの問合せに答えないというようなことはないか。</p> <p><3>当該調査、資料収集に専門家が適切に関与しているか。</p> <p><4>当該法人が外部に委託する場合、そのすべてを他者に行わせることはないか。</p>	<p>A - IV 青少年育成活動に活用できる資源の調査、資料収集</p> <p><1>青少年育成活動に活用できる体験活動の資源を調査し、体験プログラムの企画・実施に活用してもらえる情報やプログラム開発のための調査・研究に取組み、その成果を体験プログラムとして配布するとともに、ホームページで周知しています。</p> <p><2>調査、資料収集の結果を活動レポート等としてホームページに掲載しています。また、提供した情報の問合せ先をホームページに掲載し、問い合わせには職員が対応しています。</p> <p><3>調査業務は職員と調査業務に必要な専門性のある研究者と連携して実施しているため、専門家が適切に関与しています。</p> <p><4>報告書作成に関する仕様は当法人が作成し、調査結果をもとに分析・とりまとめまで行っております。</p>
<p>(3) 講座、セミナー、育成 区分ごとのチェックポイント</p> <p><1>当該講座、セミナー、育成（以下「講座等」）が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p><2>当該講座等を受講する機会が、一般に開かれているか。</p>	<p>B - I 青少年を支える人材を育成するための講座・研修</p> <p><1>この事業は、青少年及び青少年育成に関する知識の理解を深めることにより青少年育成活動の普及を促進することを目的に、青少年を取り巻くすべての人を対象に実施しており、ホームページにて明らかにしています。</p> <p><2>講座ごとに、ホームページ、パンフレット、横浜市広報に募集要項を掲載し、すべての人が参加可能であり、参加の機会が開かれています。</p>

<p><3>当該講座等及び専門的知識・技能等の確認行為（受講者が一定のレベルに達したかについて必要に応じて行う行為）に当たって、専門家が適切に関与しているか。</p> <p><4>講師等に対して過大な報酬が支払われることになっていないか。</p>	<p><3>他の育成活動を実施する中で収集した課題等から、職員が青少年育成に必要なテーマを検討し、年間プログラムを決定しています。また、講師はテーマに応じて、職員及び専門機関の支援が必要な場合は外部に依頼しています。</p> <p><4>講師の報酬は1時間あたり上限50,000円としており、過大な報酬は支払っていません。</p>
<p>(4) 体験活動等 区分ごとのチェックポイント</p> <p><1>当該体験活動等が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p><2>公益目的として設定されたテーマを実現するためのプログラムになっているか。(例: テーマで謳っている公益目的と異なり、業界団体の販売促進や共同宣伝になっていないか)</p> <p><3>体験活動に専門家が適切に関与しているか。</p>	<p>C - I すべての青少年を育むための多様な体験事業</p> <p><1>この事業は、青少年に多様な体験機会を提供することにより、青少年を健全に育成することを目的とした事業で、すべての青少年を対象に実施しており、ホームページ、パンフレット、広報等で明らかにしています。</p> <p><2>青少年が体験を通じて、自ら感じ考えることで学び育っていくことができる集団での活動体験を、横浜市内の自然環境や青少年施設、野外活動施設等を活用し実施しています。</p> <p><3>体験活動の企画・実施は職員が行っており、専門機関の支援が必要な場合は外部に依頼し、実行委員会等を組織し活動を行っています。</p>
<p>(4) 体験活動等 区分ごとのチェックポイント</p> <p><1>当該体験活動等が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p><2>公益目的として設定されたテーマを実現するためのプログラムになっているか。(例: テーマで謳っている公益目的と異なり、業界団体の販売促進や共同宣伝になっていないか)</p> <p><3>体験活動に専門家が適切に関与しているか。</p>	<p>C - II 小学生を育むための放課後の安全な遊び場と集団活動の場を提供する事業 【放課後児童育成】</p> <p><1>この事業は、小学生に放課後の安全な遊び場と集団活動の場を提供することにより、青少年を健全に育成することを目的とした事業で、小学校に在籍するすべての児童を対象に実施しています。活動内容や案内資料を毎月作成し、すべての児童及び地域に配布し、事業内容を明らかにしています。学校区に住むすべての人に周知し共に活動してもらうことで、地域の人々が子どもを守り育てていくことができる環境の醸成もあわせて行っています。</p> <p><2>横浜市の放課後児童育成施策に基づき体験活動を、学校施設及び公営施設等で実施しています。</p> <p><3>体験活動の企画・実施は職員が行っています。</p>

(2) 収益事業について

事業番号	事業の内容	定款（法人の事業又は目的）上の根拠
収1	すべての青少年が周囲の人々から見守られ、人のつながりの中で成長することができる社会を醸成するとともに、青少年にさまざまな体験機会を提供し、その成長を促すという公益目的事業を達成するために実施する収益事業	第4条第1項第4号
事業の概要		
<p>1 爆笑！濱っ子寄席（寄附金募集事業）</p> <p>この事業は、すべての青少年が周囲の人々から見守られ、人のつながりの中で成長することができる社会を醸成するとともに、青少年にさまざまな体験機会を提供して、その成長を促すための事業として、広く市民に周知し、理解を深めることを目的に落語会を実施しています。</p> <p>関内ホールにて年1回の落語会を開催し、パンフレット等により青少年育成活動を紹介するとともに、その収益を一般寄附金として青少年育成活動（公益目的事業）の資金として活用しています。更に、横浜市内の企業の社会貢献活動の一環として、パンフレットに協賛広告（有料）を掲載しています。</p> <p>事業の内容については、青少年育成活動に理解のある各種企業の代表者による実行委員会形式により企画・運営並びに協賛企業探し、チケット販売までのすべてを職員とともに実施しています。</p> <p>また、出演者の交渉から演目までを、中心となる落語家の協力により、実行委員会と検討しながら進めています。</p> <p>なお、出演する落語家も青少年育成の趣旨に賛同いただき、チャリティーとして通常より低価格にて出演していただいています。チケット代金及び企業の協賛広告収入は、出演料、会場借上げ料、パンフレットやチケットの印刷代等として支出しています。</p> <p>■第58回 爆笑！濱っ子寄席</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>日時：11月15日 <input type="checkbox"/>会場：関内ホール・大ホール <input type="checkbox"/>入場者：932人 <input type="checkbox"/>出演者：柳家ほたる、桃月庵白酒、柳家小三治、三遊亭歌之介、柳家権太楼 <input type="checkbox"/>実行委員会：4回 		
本事業を反復継続して行うのに最低限必要となる許認可等について		
許認可等の名称	-	
根拠法令	-	
許認可等行政機関	-	
本事業の利益の額が0円以下である場合の理由又は今後の改善方策について		
「爆笑！濱っ子寄席」はチケット代金の一部を寄附金として公益目的事業に使用しているために利益は0円となっています。		

VI 事業評価

総合評価

事業の柱 ／ 公益目的 事業区分	課・係・施設別評価							事業区分 別総合評 価得点率	総合評価コメント	
	事業係	かもん 未来塾	キッズ 運営課	青少年 交流・活 動支援 スペース	育成セ ンター	野島青 少年研 修セン ター	総務課			
A 青少年 活動を 支援す る事業	あ 施設 の貸与				a 75%	b 50%	a 78%		b 66%	<ul style="list-style-type: none"> 育成センターは、一般利用者の利用率が青少年指導者育成者の利用率を上回っていることが課題となっている。 野島青少年研修センターでは、体験学習校が増加したことにより、宿泊、日帰りともに利用増につながっている。 青少年交流・活動支援センターでは、中高生の活動や意見を尊重した対応が、青少年との関係づくりに良い成果を残している。
	え 相談 助言	b 63%		b 60%	a 75%	b 60%			b 63%	<ul style="list-style-type: none"> 「ようこそカフェ」は、安定運営に向けてクラウドファンディングを通じた情報発信及び支援者・協力者の募集などの取組みを実施した。 青少年交流・活動支援センターでは、青少年との関係性が深まってきており、個別相談が増加している。相談内容によっては、児童相談所などの専門機関とも連携をとるケースがある。
	お 調査 資料 収集	b 65%						b 55%		b 60%
B 青少年 を支え る人材 を育成 する事業	い 講座 セミナー 育成	a 78%		a 70%	b 60%	a 70%	a 73%		a 70%	<ul style="list-style-type: none"> 横浜市放課後児童育成事業人材育成研修を受託し、法人の研修実績を活かした研修を実施し、中間支援機能の役割を担った。 知っておきたい！子ども・若者どこでも講座は、年間目標件数を上半期で達成するなど、青少年育成に取組む団体に浸透してきた。 大交流会は、青少年に関わる活動を行っている団体が集まり、活動紹介、課題の共有、意見交流会を行う大交流会は、育成センターの役割を發揮する事業である。 指導者・育成者対象講習会では、活動に必要な技術、知識を分かりやすく習得でき、すぐに実践できたことに高い評価を得ることができた。
C 青少年 に体験 機会や 活動の 場を提 供する 事業	う 体験 活動等	b 63%	a 80%	b 65%	b 68%		a 76%		a 70%	<ul style="list-style-type: none"> かもん未来塾は、生活支援・学習支援に関して利用者ごとに支援目標を設定し、スタッフ全員が共有することで、安心して過ごせる居場所を提供できている。 体験活動推進パンフレットを作成し、他団体と協働して体験活動の重要性を周知した。 野島青少年育成センターが(株)横浜シーサイドラインと連携した事業では、鉄道ファンが研修センターを利用するなど、新規利用者獲得に繋がった。
D その他、この法人の 目的を達成するために 必要事業								b 65%	b 65%	<ul style="list-style-type: none"> 法人の広報戦略として、Twitter、Facebookを開発した。 新たな会員獲得のため、Twitterやホームページ、ユースターでの発信、濱っ子寄席でチラシ、パンフレットを配付したが、新規会員の獲得は少数にとどまった。
課・係・施設別 総合評価 上段：総合評価 下段：得点率	b 67%	a 80%	b 65%	b 68%	b 63%	a 73%	b 65%		b 68%	<ul style="list-style-type: none"> ようこそカフェの運営資金確保について、運営団体と引き続き話し合いながら、継続運営できる方策を検討する必要がある。 都筑区のキッズクラブ運営NPO法人設立支援等業務及び横浜市の人材育成研修を受託して、運営支援、人材育成研修を実施したことは、中間支援機能として役割を發揮することができた。 青少年育成の講座・研修などの情報をホームページでの情報発信に加え、今後はFacebookでの情報発信に力を入れる。 体験プログラムの検証では、利用団体のニーズを把握することで、ニーズに合った施設運営や活動にも活かすことができた。

総合評価ランク	s=90%以上 a=90%未満～70%以上 b=70%未満～50%以上 c=50%未満～30%以上 d=30%未満	得点率(%)	事業区分評価点合計 ÷ 事業区分数 × 20点
---------	---	--------	-------------------------

評価点	評価委員が事業区分毎に評価した合計点 【評価委員】 常務理事、業務執行理事、課長2人	5点=目標を大きく上回る成果、特筆すべき又は顕著な成果があった 4点=目標以上の成果があった 3点=目標を達成できた 2点=目標をやや下回った 1点=目標に届かず、改善が必要 0点=中止、未実施
-----	---	--

事業の柱 ／ 公益目的事業区分		個別事業名(含む全体)	上段:総合評価 中段:得点率 下段:次年度方針	事業評価委員会 評価・助言・指示内容等
A 青少年活動を支援する事業	え 相談助言	青少年を育成する活動の支援 ・地域の青少年育成活動の推進・支援(岡村地区、十日市場地区、地域活動拠点及びリスクを抱える高校生等の支援) ・社会貢献活動の支援・推進	a 75% ①	・子どもの幸せを実現する会(岡村地区)への運営資金補助が2019年度で終了するため、区との調整や各補助金を紹介するなど自立に向けた支援を行った。 ・高校生キャリア支援「ようこそカフェ」は、学校や協力団体との良好な関係もあって、生徒の居場所として定着している。また、安定運営に向けてクラウドファンディングを通じた情報発信及び支援者・協力者の募集などの取組みを実施した。 ・社会貢献活動に意欲的な企業・団体からの新規の相談・支援に結びついている。
		活動の相談・助言 ・活動相談(プランニング、助言)	b 50% ①	・地域、NPO、企業等からの青少年育成に関する相談・助言対応を行った。
	お 調査資料収集	調査・研究事業 ・ホームページ、SNSを活用した情報提供 ・青少年に関する意識調査 ・YOKOHAMA EYE 'S 発行 ・事例研究会・勉強会の開催	b 65% ①	・広報、情報発信の強化のため、ホームページのレイアウト変更、Facebookの開設など新たな情報発信に取り組んだ。 ・青少年に関する意識調査によって、青少年を取り巻く環境や青少年の実態、体験活動の効果把握することができた。また、調査結果を発信することで法人の存在を広く多くの人に知らせることができた。 ・寄り添い型生活支援施設を運営している団体による情報交換会を始めて開催したが、参加した団体からは継続的な開催を求める声が多かった。
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座セミナー育成	子ども・若者に関する講座・研修のコーディネート・講師派遣 ・知っておきたい!子ども・若者どこでも講座の実施 ・講師(職員)派遣	a 70% ①	・知っておきたい!子ども・若者どこでも講座は、年間目標件数を上半期で達成するなど、地域の青少年育成取組む団体に浸透してきた。なお、次年度は、担当職員の帯同の縮減や新たなメニューの設定など事業改善を進める。
		市民への啓発事業 ・子ども・若者エンパワメントセミナー	a 85% ①	・市民を対象に子ども・若者を取り巻く現状や身近な課題であるテーマを設定しているが、今回のテーマへの関心の高さから、定員250名に対して249名の参加があった。
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 ・体験活動の普及・啓発に係る広報活動(「体験の風おこそう」運動の推進) ・青少年育成団体や関係機関等と協働した体験機会の提供(開港祭体験ブース出展、キャリア支援プログラムのモデル実施)	b 60% ①・②	・体験活動推進パンフレットを作成し、他団体と協働して体験活動の重要性を周知した。また、パンフレットに法人独自の調査結果の情報を掲載することで、体験活動に取り組む団体の側面的支援となっている。 ・就業体験では、釜石の漁業体験(参加7人)、矢祭町の農業体験(参加10人)を実施し、事前事後で課題解決の勉強会などを組合せたことで、高校生の職業観の広がりや就労への関心を深めることにつながった。
		道志村と連携した社会体験・交流プログラム	b 65% ①	・児童交流や村にない産業や社会資源に触れることで、横浜市と道志村との関わりについて理解を深めるという事業目的は概ね達成することができた。
		経営業務姿勢	b 67% ①・②	・ようこそカフェは、交流相談の居場所として青少年課題の早期発見や企業や団体の社会・就業体験プログラムの提供の場となり評価を得ている。2019年度は、運営資金確保について、運営団体と引き続き話し合いながら、継続運営できる方策を検討する必要がある。 ・青少年に関する意識調査を実施し、青少年の放課後の過ごし方、体験活動の経験、居場所への意識の把握につなげることができた。

事業企画課 かもん未来塾

※次年度方針 ①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分		個別事業名(含む全体)	上段:総合評価 中段:得点率 下段:次年度方針	事業評価委員会 評価・助言・指示内容等
C 青少年に 体験機会 や活動の 場を提供 する事業	う 体験 活動 等	寄り添い型生活支援事業	a 80% ①・②	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して過ごせる居場所を提供することを重点に運営を行っている。 ・利用者の入れ替わりはあったが、利用者には丁寧な関わりが継続できた。 ・生活支援・学習支援に関して利用者ごとに支援目標を設定し、スタッフ全員が支援目標を共有できている。 ・区役所との連携では、担当ケースワーカーや教育支援専門員と日常的に情報を共有ができています。

キッズ運営課

※次年度方針 ①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分		個別事業名(含む全体)	上段:総合評価 中段:得点率 下段:次年度方針	事業評価委員会 評価・助言・指示内容等
A 青少年活 動を支援 する事業	え 相談 助言	放課後キッズクラブの安定的な運営に向けた相談、助言	b 60% ①	<ul style="list-style-type: none"> ・都筑区放課後キッズクラブ運営NPO法人設立支援等業務を受託し、都筑区の地域NPO立ち上げ型法人による放課後キッズクラブの運営支援を行った。
B 青少年を 支える人 材を育成 する事業	い 講座 セミナー 育成	放課後3事業従事スタッフの人材育成研修 (「横浜市放課後児童育成事業人材育成研修」を受託)	a 70% ①	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市放課後児童育成事業人材育成研修を受託し、放課後3事業(放課後キッズクラブ、はまっ子ふれあいスクール、放課後児童クラブ)及び放課後児童人材育成事業の届出をした事業所のスタッフに対する人材育成研修を実施した。
C 青少年に 体験機会 や活動の 場を提供 する事業	う 体験 活動 等	放課後キッズクラブ運営	b 65% ①	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後キッズクラブ27か所において、児童の自主性や主体性・創造性を培い、安全、人権、教育に配慮しながら安定的な運営を行った。
		経營業務姿勢	b 65% ①	<ul style="list-style-type: none"> ・都筑区放課後キッズクラブ運営NPO法人設立支援等業務及び横浜市放課後児童育成事業人材育成研修を受託して、運営支援、人材育成研修を実施したことは、中間支援機能として役割を發揮することができた。

事業施設課 青少年交流・活動支援スペース

※次年度方針 ①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分		個別事業名(含む全体)	上段:総合評価 中段:得点率 下段:次年度方針	事業評価委員会 評価・助言・指示内容等
A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	場の提供による活動支援事業 ・フリースペースの運営 ・諸室の貸出 ・利用促進	a 75% ①	・中高生の活動や意見を尊重した対応が、青少年との関係づくりに良い成果を残している。 ・スタジオの騒音問題による利用休止に伴い稼働率、利用者数が減少している。フリースペースの利用は増加している。
	え 相談助言	相談による活動支援事業 ・日常的な相談支援事業 ・個別相談事業 ・啓発事業	a 75% ①	・青少年との関係性が深まってきており、個別相談が増加している。相談内容によっては、児童相談所などの専門機関と連携をとるケースがあった。 ・青少年の抱える課題や悩み、解決に至るプロセスを把握するため、相談内容や対応を記録することに努めている。
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座セミナー育成	青少年サポーター育成事業	b 65% ①	・さくらリビングに集う青少年が地域の大人と出会う機会を増やして、活動に参加した青少年の成長が感じられる。
		保護者への啓発事業 ・保護者向けセミナーの開催	b 55% ①	・青少年を取り巻く現状や身近な課題を知り、必要な知識を学ぶことで、青少年が課題や困難に直面するリスクを減らす目的で、保護者対象とした啓発事業「ネットSNSの安心安全」を実施した。
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	青少年の交流・体験事業 ・交流促進事業 ・青少年チャレンジ体験事業	a 75% ①	・交流促進事業は、ロビーに集う青少年が企画するなど青少年の力を活用しながら運営ができており、青少年が主体的に活動する場になっている。 ・チャレンジ事業や、交流促進事業をきっかけに仲間作りが進んでいる。
		青少年の社会参加事業 ・社会体験・就労体験活動 ・青少年ボランティア事業 ・青少年委員会の運営	a 75% ②	・社会参加活動を通して地域の大人との出会い、新しい視点や価値観に触れることで、自信を持ち、体験後も積極的に他の事業に参加したり、他者とコミュニケーションを図るなど、参加者の成長がみられる。
		異世代交流促進事業 ・地域交流事業 ・子ども若者コミュニティ事業	b 60% ①	・地域の大人が青少年と知り合う機会をつくることで、青少年を見守る大人の輪を広げる地域交流事業を実施した。 ・社会について考える若者コミュニティーを作る社会参加の機会を提供した。
		青少年支援事業 ・小中高生を対象とした居場所づくり	b 60% ①	・困難を抱える小中高生が居場所での繋がりを通して、潜在的な課題やリスクを抱える青少年の支援となっている。 ・多様な青少年が社会とつながる機会として、個別支援が必要な青少年の貴重な活動の場となっている。
		経営業務姿勢	b 68% ①・②	・施設の認知度が地域で高まってきており、近隣の中学生の利用も増えている。 ・利用していた高校生が卒業して大学生となった利用者や、実習後の大学生が事業に協力する機会が増え、サポーターとして中高生とも良い関係性が構築されている。 ・多様な課題を抱えた青少年の関わりも増えてきており、青少年にとって行きやすい場、行きたくなる場として認知されてきている。

事業施設課 青少年育成センター

※次年度方針 ①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分		個別事業名(含む全体)	上段:総合評価 中段:得点率 下段:次年度方針	事業評価委員会 評価・助言・指示内容等
A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	諸室及び物品の貸出 ・研修室や機材、印刷機等の貸出 ・防災（訓練等の実施）	b 50% ②	・稼働率は回復傾向にあるが、稼働率は55.4%とであり、特に和室の稼働率は34.3%となっている。また、一般利用者の利用率が青少年指導者育成者の利用率を上回っていることが課題である。 ・利用件数が少ないコピーボットの貸出を廃止した。
		利用促進事業	b 50% ②	・稼働率向上のため、効果的な広報戦略による施設のPRを行うとともに、利用しやすい施設環境づくりに努め、青少年指導団体の利用向上に努める。
	え 相談助言	相談・コーディネート	b 55% ②	・青少年育成や、ボランティア・市民活動等に係る相談窓口を開設し、昨年度を上回る相談があった。 ・地域の青少年育成活動の情報や研修講師の情報、青少年育成団体が活用できる情報を収集し事業に活用している。
情報提供（情報コーナーの運営） ・情報コーナーの運営強化 ・青少年関係の情報収集・提供		b 65% ③	・青少年育成に関する講座・研修情報、青少年が繋がることのできる青少年施設情報、青少年関係の地域活動情報などの情報を収集し、中間支援機能組織として情報を発信している。	
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座セミナー育成	青少年育成活動初任者養成事業 ・青少年育成活動初任者研修 ・発達障がい理解と支援講座 ・コーチング入門講座 ・体験プログラム講座 ・ユースチャレンジ	b 65% ①・②	・初任者養成研修として良いテーマを設定することで、定員以上の申し込みがありニーズの高さを感じた。 ・発達障がいの理解と支援講座では、初めて療育センター職員を講師として迎え、発達障がいの捉え方、特徴・支援のポイントや支援施設の現状など具体的な内容から満足度が高かった。 ・コーチング入門講座は、コーチングステップアップ研修との連続講座で実施したが、コミュニケーションの手法であるコーチングが一般化されてきているのか、参加者の減少がみられた。
		青少年育成活動を充実するための研修・講座 ・青少年の居場所づくり講座 ・スキルアップ研修 ・コーチングステップアップ研修 ・リスクマネジメント ・広報力アップ講座 ・青少年を支援するための記録のとり方 ・青少年団体、青少年機関との協働事業	a 70% ①・②	・居場所づくり講座を横浜市立大学「エクステーション講座」と連携して実施することができたことで、居場所づくりに専門的に取り組む講師を招くことができ、居場所づくりや居場所施設の運営など、より深い学びを提供することができた。 ・リスクマネジメント研修は、「横浜にプレイパークを創ろうネットワーク」と共催して実施することで、プレイパークの現場を活用したリスクマネジメントを考える機会となった。 ・広報力アップ講座は、注目度の高い、SNSでの広報をテーマとしたことで、参加者が意欲的な姿勢で講義に臨む姿勢が見られ、参加者の満足度も上がった。 ・企業の社会貢献事業として企業から講師の派遣を受けて、誰でも気軽に活用できるホワイトボード会議の進め方など、理論と基礎、実践を学ぶことができた。
		指導者・支援者相互の交流を通じて課題を解決する研修・講座 ・よこはまユースゼミ ・横浜・子ども青少年に関わる活動関係者の大交流会	a 70% ①	・ユースゼミは、参加者同士のつながりを支援する運営を行い、自主的なネットワークの立ち上げをサポートすることを目的にしている。今後は、新たな課題やテーマの講座研修を行うための機会と位置付けることも考える。 ・青少年に関わる活動を行っている団体が集まり、活動紹介、課題の共有、意見交流を行う大交流会は、育成センターの役割を發揮する事業である。
		青少年が抱える課題の解決を支援する人材の育成	a 75% ②	・ユースコーディネーター養成研修は、青少年育成者の導入的な講座として一定数のニーズがある。今後も改善を加えながら継続し、育成センターのメイン事業となるように取組んでいく。
		経營業務姿勢	b 63% ①・②	・諸室の貸出では、青少年育成団体の優先受付や青少年育成団体のニーズにあった支援内容を検討し、稼働率向上を目指す。 ・相談窓口における相談に対して適切に対応するためには、職員及びスタッフの対応力の向上を目指す。 ・青少年に関する地域活動、青少年育成の講座・研修などの情報をホームページでの情報発信に加え、Facebookでの情報発信に力を入れる。 ・青少年の困難さを理解する研修はニーズが高い。今後も青少年を取り巻く社会的課題に対するテーマの研修・講座を展開する。 ・育成センターが取り組む研修の全体研修体系を明確にする。連携事業が増加することで、無料講座が多くなり、事業参加費収入が見込めなくなっている。今後は、有料研修と無料研修のすみわけを行い、事業参加費の確保に努める。

事業の柱 ／ 公益目的事業区分		個別事業名(含む全体)	上段:総合評価 中段:得点率 下段:次年度方針	事業評価委員会 評価・助言・指示内容等
A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	施設・設備貸出事業 ・事前相談における丁寧な対応、柔軟なコーディネート ・利用者の利便性の向上のための物品販売 ・体験活動に必要な情報の提供	a 85% ①	・施設の安全性、利便性を高め、利用団体の活動目的や特性を配慮したサポートができています。 ・体験学習校が増加したことにより、宿泊、日帰りともに利用増につながっている。また、地域連携事業の定着により、定期的に日帰り利用者が見込めている。 ・利用者アンケートでは、職員対応及び設備ともに高い評価が得られている。 ・施設の老朽化に伴い、設備等の計画的な更新を進める必要がある。
		利用促進事業	a 70% ①	・近隣の小学校、中学校、高等学校、大学に訪問し、部活動及び生徒会活動での利用促進を図っている。 ・利用の促進を図るため、「横浜市立大学運動部会報誌」への広告掲載を行うなど、チラシ、HP、ツイッターを活用した施設や施設が行う活動について、情報発信を進めている。
	お 調査資料収集	体験プログラムの調査研究 ・自然体験キャンプ参加者を対象とした調査 ・困難を抱える青少年を対象としたニーズ調査・検証	b 55% ②	・学校へのアンケートでは、自然体験プログラムに参加したことで、子どもたちが協力する意識や協調性が向上したとの意見があった。 ・困難を抱える青少年のための寄り添い型支援事業のアンケートでは、参加者同士の交流や目標の達成感を実感している参加者が多数ある中、他者を理解することの難しさを実感したとの参加者の意見があった。
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座セミナー育成	青少年指導者・育成者研修 ・実践的な指導者・育成者対象講習会の実施 ・ホームページやメールを活用した指導者・育成者への情報提供	a 70% ②	・指導者・育成者対象講習会は、講師の知識と経験を活かした内容が教員のニーズに合致し、参加者は安定している。 ・指導者・育成者に対して、HPやメールを活用した迅速な情報提供に努めている。 ・活動に必要な技術、知識を分かりやすく習得でき、すぐに実践できたことに高い評価を得ることができた。
		ボランティアの養成 ・ボランティアの受け入れと支援 ・施設ボランティアの養成	a 75% ①	・青少年ボランティアを集めるために職員が定期的に高校・大学への訪問、「のじボラ」との継続的なコミュニケーションを図ることで、ボランティア活動への参加に結びついている。
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	体験プログラムの提供 ・施設特性を活かしたプログラムの提供 ・自然環境を活かしたプログラムの提供 ・地域産業との連携によるプログラムの実施 ・防災キャンプ	s 90% ②	・自然環境を活かし体験プログラムであるカヌー体験、いかだ作り等の海活動は年々需要が増えている。 ・学校の教育プログラムに対応した星空観察を実施するなど、学習の要素を加えた取組みとなっている。 ・(株)横浜シーサイドラインと連携した事業では、鉄道ファンが研修センターを利用するなど、新規利用者獲得に繋がった。 ・防災キャンプは、次年度から「てんでんこ金沢」が主催する事業と連携して進める。
		市民活動団体と協働した体験事業 ・自然体験キャンプの実施 ・自然・文化体験教室の実施 ・野島海岸の保全活動	a 75% ②	・自然体験キャンプは、チラシや口コミによる新規申込の増、メール配信によるリピーターにより参加者増につながっている。 ・市民活動団体やNPO法人と連携を図ることで、多種多様な活動を提供することができた。 ・体験キャンプでは、ツイッターで当日の活動を発信することで参加者の保護者に活動の取組みを知ってもらうことができ、保護者からは好評を得た。
		困難を抱える青少年のための体験活動の支援 ・不登校児童生徒の宿泊体験の実施 ・障がいのある児童生徒の宿泊体験の実施 ・困難を抱える青少年を対象とした宿泊キャンプの実施	b 65% ①	・困難を抱える青少年がコミュニケーション能力の向上や自信回復が図られるよう、生活体験や集団活動の機会を提供することができている。 ・ハートフルスペース宿泊体験では、プログラムを見直すなど事業内容の工夫ができています。 ・クリスマスキャンプは実行委員会が自主的に企画運営を行い、温かみのある事業となっている。 ・わくわく生活体験キャンプは、団体との調整に時間を要したため募集期間が短かったこともあって参加者が少数となったが、その反面、一人ひとりに寄り添いながら活動することができた。
		地域交流事業 ・地域住民と連携した事業の実施 ・地域ネットワーク会議の開催 ・地域との防災への取組み	a 75% ②	・施設の活動及び青少年に対する理解を深めるため、近隣地域との交流を図った。 ・地域住民と連携した文化活動教室では、参加しやすい内容・雰囲気があり、積極的な広報を行っているため、毎回定員を超える参加があった。また、参加者同士の交流も図られている。 ・ネットワーク会議がきっかけとなって、2町内会、野島公園と合同で防災訓練を実施することができた。
		経営業務姿勢	a 73% ①・②	・施設の貸出では、閑散期利用や学校以外の利用促進を進める。 ・体験プログラムの検証では、利用団体のニーズを把握することで、ニーズに合った施設運営や活動にも活かすことができています。 ・指導者講習会の参加者は、学んだ知識が体験学習に活かされ、安全で充実した体験活動に結びついている。

※次年度方針 ①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分	個別事業名(含む全体)	上段:総合評価 中段:得点率 下段:次年度方針	事業評価委員会 評価・助言・指示内容等
D その他、この法人の目的を達成するために必要な事業	賛助会員及び一般寄附者の拡充 ・会員募集事業（陶芸教室） ・新春のつどい	b 50% ①	・法人活動への関心、理解を促し、新たな会員獲得のため、Twitterやホームページ、ユースレターでの発信、濱っ子寄席でチラシ、パンフレットを配付した。 ・寄附金の獲得では、寄附のしやすさのため、インターネットバンキング口座を開設し、その周知を図った。
	寄附金拡充を目的とした収益事業 ・爆笑！濱っ子寄席	a 80% ①	・Twitterによるチケット販売状況の発信を行うとともに、チケット代金の事前振込やインターネットバンキングの利用を可能としたことで、入場者の増の一因にもなったと考えている。
	法人の広報・PR ・よこはまユースレター ・法人ホームページの維持・管理、SNSの開設	b 65% ①	・法人の広報戦略として、Twitter、Facebookを開設した。今後は、ホームページを含めた、それぞれの特性を活かした役割に基づく使い分け発信を進める。 ・紙媒体である「ユースレター」については、内容やタイトルを工夫するとともに、Twitter、Facebookでも発信した。
	職員の人材育成 ・新採用職員研修 ・実務専門研修 ・管理職研修 ・人権研修	b 65% ①	・法人職員として身に付けるべき技能・力量形成に必要な研修を実施した。 ・実務専門研修では、内閣府の「構成機関における相談業務に関する研修」に職員を派遣した。 ・管理職研修では、「ハラスメント」研修を、人権研修では、「性的マイノリティと人権」研修を実施した。
	経営業務姿勢	b 65% ①	・濱っ子寄席では、共同主催者の関わり、共催関係にある横浜市の許可基準とそれに伴う関内ホール使用の一年前の事前予約等、これまでの状況とは変わりつつあると感じている。 ・職員の研修受講状況を把握しながら、人材育成計画を立てながら研修への派遣を行う。